

令和 7 年度 (2025 年度)

シラバス (授業計画)

言語療法学科 1 年次

科目名	教養セミナー			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、実際の現場で求められる「ことばの力」「数的思考力」「コミュニケーション能力」について指導する。						
科目担当者	田中美紀・安藤隆一・河野武・城下未来（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	本講義では、社会人として必要な基礎的な教養を身につけることを目的とするとともに、国家試験問題を解く際に求められる基礎力向上にもつなげる。
授業の到達目標	1. 社会時事問題について自分の意見を持ち、論理的に表現できるようになる。 2. 基本的な計算力や数学的思考力を身につけ、国家試験問題の数的処理にも対応できるようになる。 3. 文章を正確に読み解き、分かりやすく表現する国語力を向上させ、試験問題の読解や記述に活かせるようになる。 4. 社会人として適切な文章作成やマナーを身につけ、実践できるようになる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	社会時事問題について調べる。	安藤
第 2 回	社会時事問題の発表	安藤
第 3 回	国家試験問題における数的処理の対策	河野
第 4 回	国家試験問題における数的処理の対策	河野
第 5 回	文章の正確な読解（主旨把握、要約力の向上） 語彙力の強化（多様な表現の習得、適切な言葉の選択）	田中
第 6 回	論理的な文章の書き方（意見文・要約文・レポート作成）	田中
第 7 回	ビジネス文書の基本を学ぶ（手紙・お礼状・メールのマナー）	城下
第 8 回	ビジネス文書の基本を学ぶ（手紙・お礼状・メールのマナー）	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他（ ） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	心理学概論			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスなどでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえて、対人援助場面において必要な心理学の知識について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。 心理学的な見方を身につけ、援助の対象となる人の心理や行動を理解する糸口を見つけられるようになることをねらいとする。
授業の到達目標	1. 心理学の成り立ちや心の基本的な仕組み及び働きを理解することができる 2. 人間の様々な活動に心の動きが影響を与えていることを理解できる 3. 自身の心の状態を把握し、日常生活の中で心をコントロールすることができる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	心理学概説	城下
第 2 回	心理学の歴史、研究法	城下
第 3 回	感覚と知覚①	城下
第 4 回	感覚と知覚②	城下
第 5 回	記憶①	城下
第 6 回	記憶②	城下
第 7 回	思考	城下
第 8 回	感情・動機づけ	城下
第 9 回	学習①	城下
第 10 回	学習②	城下
第 11 回	コミュニケーション①	城下
第 12 回	コミュニケーション②	城下
第 13 回	社会と集団①	城下
第 14 回	社会と集団②	城下
第 15 回	まとめ	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (80%) (%) (%) (20%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	学習内容が多いため、各自で復習しながら取り組んでくれることを望みます。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）
参考書	

科目名	日本語表現法	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	古市 寛 (所属：大村綜合法律事務所 弁護士)				
	(実務経験：○・無) ・代表弁護士として法律事務所に所属。刑事民事問わず、様々な裁判実務を担当。 ・言語の専門家として、自らの言葉の効果を考え、発することが出来るように指導する。				
科目担当者	古市 寛				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	1. 職業倫理について考える。 2. 言葉の持つ力について考える。 3. 職業倫理を実践するための言葉を考える。
授業の到達目標	社会人及び職業人として活躍する自分を想像し、自分が発すべき「言葉」を考えることにより、職業倫理を実践するための言葉を発する素養を身につける。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	本講座の概説	古市 寛
第 2 回	職業倫理について①	〃
第 3 回	職業倫理について②	〃
第 4 回	言葉の持つ力について①	〃
第 5 回	言葉の持つ力について②	〃
第 6 回	言葉の持つ力について③	〃
第 7 回	職業倫理を実践する言葉について①	〃
第 8 回	職業倫理を実践する言葉について②	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 (60%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 実習評価 (%) ☒ 小テスト (40%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
準備学習 学習へのアドバイス	予習、復習は要りません。講義の中で考えて下さい。
履修条件	想像力
教科書	関係資料配布
参考書	特になし

科目名	芸術論			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	坂中 淳（所属：大村市美術協会 会長）						
	（実務経験：無）						
科目担当者	坂中 淳						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実技	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	表現及び鑑賞の活動を通して、言語療法士としての資質の向上に役立てる。 〈表現：描いたり、つくったりして表す活動〉 〈鑑賞：自然や生活、美術作品などにふれる活動〉
授業の到達目標	一人ひとりの生徒の良さを見出し、その個性を伸ばす授業を目指す。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	自己紹介 ●芸術とは何か（鑑賞）	坂中
第 2 回	Picasso の作品について（鑑賞）	〃
第 3 回	絵画の基礎基本 ●グラデーションの練習（6段階と無限段階）	〃
第 4 回	いろいろな透視図法で立体を描く（作図実習）	〃
第 5 回	物のとらえ方 ●円柱形の描き方	〃
第 6 回	空き缶を描く （鉛筆デッサン）	〃
第 7 回	物の見え方 ●遠近感の表現 透視図法について 遠近感の表現	〃
第 8 回	1点透視図法で立体文字を描く 3階建て文字（作図実習）	〃
第 9 回	物の表し方 ●リンゴの基本・線の向き リンゴのデッサン①	〃
第 10 回	リンゴのデッサン②（鉛筆か色鉛筆）	〃
第 11 回	写真とは何か ●デジタルカメラとスマホレンズの図解の仕組み 撮影の基本	〃
第 12 回	①デジカメ・スマホで身の周りを撮影する（実習） ②しまうまプリントの説明と注文指示	〃
第 13 回	写真で表す ●①1枚を選び色鉛筆で絵を描く パソコンで構図を考えて作品化する（実習）	〃
第 14 回	②しまうまプリントの作品を創る	〃
第 15 回	写真で表す ●絵を描く（前時の続き）	〃
第 16 回	前時の続き完成・まとめ・スケッチブック提出	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☐定期試験 ☒実技試験 ☒実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他（ ） （ %） （50%） （50%） （ %） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	計画に基づいて安全面・時間も考え真剣に学習に取り組む。 準備や後片付けは丁寧に行う。
履修条件	提出物は〆切を守る。

教科書	なし
参考書	なし

科目名	文化人類学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	畠山 均（所属 長崎純心大学人文学部 名誉教授） （実務経験：有）民間企業や教員対象の異文化コミュニケーション研修において講師として多数の経験を有す。グローバル化時代に社会人として生活していく上で必要な異文化理解能力が身につくよう指導する。				
科目担当者	畠山 均				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	文化人類学は主として自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化（異文化）を様々な視点から研究し、自分の文化と比較する事を通して <u>自らの文化を客観的かつ相対的に見る視点</u> を与えてくれる。その意味で文化人類学とは <u>自分を理解するための学問</u> である。 この講義ではこれまでの文化人類学の研究成果を踏まえ、現代世界において「文化とは何か」と問う事の重要性について理解を深める。具体例として日本語と英語のコミュニケーションの違いを論じていく。
授業の到達目標	1. 現代日本社会の多文化状況を理解し、説明できる。 2. 「見える文化」と「見えない文化」の違いを理解し、「見えない文化」を理解する事の重要性を説明できる。 3. コミュニケーションと価値観との関係を理解し、説明できる。 4. ステレオタイプが文化背景を異にする他者を理解する上でどのように影響しているかを理解し、具体的事例について説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	多文化化する現代日本社会	畠山
第 2 回	偏見とステレオタイプー日本人のイスラム教徒の理解を例として	畠山
第 3 回	文化を考える視点（1）ー高等文化と一般文化	畠山
第 4 回	文化を考える視点（2）ー見える文化と見えない文化	畠山
第 5 回	価値観とコミュニケーション（1）	畠山
第 6 回	価値観とコミュニケーション（2）	畠山
第 7 回	価値観とコミュニケーション（3）	畠山
第 8 回	価値観とコミュニケーション（4）	畠山

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他（グループディスカッション） （ 50%） （ %） （ %） （ %） （ 30%） （ 20%）
準備学習 学習へのアドバイス	講義だけではなく、動画視聴、グループディスカッションを頻繁に取り入れる。特に <u>グループディスカッションレポートは成績評価において大きな割合を占めるのでグループディスカッションには積極的に参加すること。</u>
履修条件	なし

教科書	欧米人が沈黙するとき（直塚玲子著），大修館書店
参考書	授業中に指示する

科目名	教育学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	柳田 泰典（長崎大学名誉教授） （実務経験：無）				
科目担当者	柳田 泰典（長崎大学名誉教授）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	1. 現代的な人格の形成と教育活動との関係について学ぶ。 2. 教授－学習－行為と言語活動との関係について学ぶ。 3. 自己決定学習について理解し実行することを学ぶ。
授業の到達目標	1. 現代的な人格形成の課題を把握し、教育活動の可能性を理解できる。 2. 言語活動の重要性を理解し、言語メッセージをエンパワーメントできる。 3. 自己決定学習を実行し、プレゼンテーションができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	言語メッセージについて考える（あいさつします、わたしから等）	柳田
第 2 回	人を教えるということ（第 2 部 第 1 章）	柳田
第 3 回	教育・学習・行為（第 3 部 第 3 章）	柳田
第 4 回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育（第 4 部 第 3 章）	柳田
第 5 回	教える・学ぶプロジェクト（自己決定学習：課題づくり）	柳田
第 6 回	訓練・他者とのかかわりを導く（第 2 部 第 2 章）	柳田
第 7 回	ジェンダーとセクシュアリティ（第 4 部 第 2 章）	柳田
第 8 回	習慣と言語活動（外言と内言）	柳田
第 9 回	言語活動と習慣（内言と外言）	柳田
第 10 回	教える・学ぶプロジェクト（プレゼンテーションⅠ）	柳田
第 11 回	教える・学ぶプロジェクト（プレゼンテーションⅡ）	柳田
第 12 回	教育の担い手（第 3 部 第 4 章）	柳田
第 13 回	教育の目標と評価（第 3 部 第 2 章）	柳田
第 14 回	シティズンシップ教育（第 4 部 第 5 章）	柳田
第 15 回	まとめ	柳田

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 1 0 0 % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	教科書の該当箇所を読んでください。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 教育学
参考書	

科目名	社会福祉概論				開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	柏木 伸子（社会福祉法人ことの海会 相談支援センタースマイル 相談支援専門員）							
	（実務経験*：有） ・社会福祉士取得後、障害者支援施設で入所・通所のご利用者とそのご家族の様々な相談や困難ケースの対応を実践してきた。 ・平成 20 年より障害児入所施設の民間移譲に伴い、園長として児童相談所をはじめ福祉行政機関および教育機関との連携のため、ネットワークの構築に努めた。 ・地域の自立支援協議会委員として、「児童発達支援部会」の設置を呼びかけ、また、児童発達支援センターの創設に取り組んだ。 ・障害児者支援の要である「児童発達支援管理責任者およびサービス管理責任者」の国研修を受け、長年、県の講師及びファシリテーターを務めた。 ・障害児入所施設及び児童発達支援センターでは、貴校の臨床実習の受け入れも行えるよう作業療法士の人員配置等を考慮し、その他の国家資格取得のための現場実習も多数実施してきた。 ・障害児者が地域で暮らしていくために、福祉だけでなく医療・教育との連携の必要性を理解できるよう、また、現実としての国の現状を、講義の中で促していく。							
科目担当者	柏木 伸子							
学 科	言語療法学科					学 年		1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数		15

授業の概要 （主題）	人びとの生活を保障する社会福祉の形成過程をふまえて法律や制度、福祉サービスを理解し、援助方法について基礎的な知識を学ぶ。これらの学びをとおして、リハビリ専門職としてそれらを社会資源として活用できるようになることを目指す。
授業の到達目標	社会福祉の法律と制度の概要を理解できる 社会福祉のサービスを理解できる 社会福祉の援助を理解できる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	社会福祉の歴史	柏木
第 2 回	社会福祉の動向	柏木
第 3 回	高齢者福祉サービス	柏木
第 4 回	障害者福祉サービス	柏木
第 5 回	児童家庭福祉サービス	柏木
第 6 回	地域福祉サービス	柏木
第 7 回	社会福祉の援助 1	柏木
第 8 回	社会福祉の援助 2	柏木

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	リハビリ専門職として関わる人々を取り巻く制度や社会保障等に理解を深めることで広い視野を持ち、さらなる専門職としてのスキルと高めてください。
履修条件	積極的に取り組み、私語等は慎むこと

教科書	医学書院『系統看護学講座 社会保障・社会福祉』
参考書	

科目名	生物学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	久保 惣二郎（所属 元青雲高等学校 教諭）				
	（実務経験：無） 高等学校にて生物学を指導した経験を活かして、講義を行う。				
科目担当者	久保 惣二郎				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	専門科目の基礎となる人体の構成、機能と調節、代謝、ヒトの遺伝などについて基礎知識を学習する。
授業の到達目標	1. 細胞のはたらき、組織・器官の役割を理解する。 2. エネルギーの移動に注目して、代謝のしくみを理解する。 3. 恒常性の維持と外部環境との関わりを理解する。 4. 生殖と発生、遺伝について理解する。 5. 受容器と効果器の構造とはたらきについて理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	生物の分類、細胞のはたらき	久保
第 2 回	光合成のしくみ、呼吸のしくみ	久保
第 3 回	エネルギー交代、内部環境	久保
第 4 回	遺伝子と DNA、生物の生殖法	久保
第 5 回	遺伝法則、様々な遺伝現象	久保
第 6 回	動物の発生のしくみ	久保
第 7 回	受容器の構造とはたらき	久保
第 8 回	効果器の構造とはたらき	久保

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	講義資料を繰り返し熟読し、理解するよう努めること。
履修条件	必ず出席すること。積極的な態度で受講すること。

教科書	人間のための一般生物学 裳華房
参考書	必要時の授業で紹介する。

科目名	統計学			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	中道 隆広（長崎総合科学大学 総合情報学部 総合情報学科 准教授） （実務経験：無）						
科目担当者	中道 隆広						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	データ処理を行うためには統計手法を用いることが必要である。統計手法を適切に利用するために、前提となる重要な考え方を学びデータ処理を行う前から統計手法を意識できるようにする。
授業の到達目標	統計処理の基本を理解 仮説を検証することができるようになる。 統計的仮説検定を理解し、評価することができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	統計学の基礎知識	中道
第 2 回	データのまとめる方法	〃
第 3 回	標本と母集団	〃
第 4 回	分散と標準偏差	〃
第 5 回	正規分布とそのほかの分布	〃
第 6 回	仮説の立て方	〃
第 7 回	統計的仮説検定のしくみ	〃
第 8 回	有意差検定の意味	〃
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100 %) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	教科書を中心に講義を進め、適所でパワーポイントを使い重要な個所の説明を行います。
履修条件	

教科書	健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学 出村慎一、杏林書院
参考書	

科目名	情報工学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	町田 勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）病院及び障害者更生施設にて理学療法士として勤務。回復期・生活期リハ、地域連携・支援の経験あり。実務および臨床研究，学会発表，論文執筆等の経験をもとに、学習および業務に最低限必要な ICT 機器やアプリの知識・技術を指導する。				
科目担当者	町田 勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	iPad の基本操作や授業で使用するアプリの使用方法を習得する Microsoft Teams にアクセスし講義配布資料の保存や学習への活用方法について学ぶ 文章作成・表計算・プレゼンテーションアプリの基本的な使用方法を学ぶ 目的に応じた文書作成・表の作成・プレゼンテーションを行う
授業の到達目標	1. 授業および学習に必要な iPad の操作およびデータの保存，提出，印刷ができる 2. 文章作成アプリで書式を設定した書類やレポートを作成することができる 3. 表計算アプリの仕組みとデータ処理の方法を理解し表を作成することができる。 4. プレゼンテーションアプリの操作方法を理解しスライドを作成することができる。 5. プレゼンテーションを行うことができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	イントロダクション・iPad の基本操作、	町田
第 2 回	Microsoft Teams の利用方法、講義資料データの活用、情報リテラシー	町田
第 3 回	Pages の基本操作を学ぶ	町田
第 4 回	Pages の基本操作を学ぶ、Pages の課題の作成	町田
第 5 回	Numbers の基本操作を学ぶ（表の作成と表計算）	町田
第 6 回	Numbers の基本操作を学ぶ（表の作成と表計算）	町田
第 7 回	Numbers の基本操作を学ぶ（グラフ作成）	町田
第 8 回	Numbers の基本操作を学ぶ（グラフ作成）、	町田
第 9 回	Numbers の課題の作成、	町田
第 10 回	プレゼンテーションの基本を学ぶ、Keynote の基本操作を学ぶ	町田
第 11 回	Keynote の基本操作を学ぶ	町田
第 12 回	プレゼンテーションを作成する	町田
第 13 回	プレゼンテーションを作成する	町田
第 14 回	プレゼンテーションを行う	町田
第 15 回	まとめ	町田

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート(課題) ☐ その他() (%) (50%) (%) (%) (50%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	iPad を持参すること(自宅で充電しておくこと)。iPad は Apple へのアカウント登録、Microsoft Teams のインストールとサインインを済ませておいてください。外付けキーボードがあると文書作成の効率が操作に慣れ・不慣れがあると思いますがみんなで助け合いながら一緒に取り組んでいきましょう。
履修条件	必修科目ですので必ず出席すること。

教科書	東 弘子(著) ; Pages・Numbers・Keynote マスターブック 2024, マイナビ.
参考書	医療・看護系のための情報リテラシー（東京図書）、他、必要時に紹介します。

科目名	物理学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	吉武 輝美				
	(実務経験：無)				
科目担当者	吉武 輝美				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	言語聴覚士に必要な音響学の基礎となる振動と波動、音波の性質について学習する。
授業の到達目標	音響学の学習を十分理解できるように、音波を含む波動の基本的概念と理論を習得する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	音とは何か、周期と振動数（周波数）について	吉武
第 2 回	振動と波の表し方、進行波、波の伝わる速さ	吉武
第 3 回	縦波と横波、波の重ね合わせと定常波（定在波）	吉武
第 4 回	音の性質、発音体の振動と共振・共鳴	吉武
第 5 回	うなり、弦の振動	吉武
第 6 回	気柱の振動（開管、閉管の共鳴）	吉武
第 7 回	純音、倍音と音階、音の回折・反射・屈折	吉武
第 8 回	音圧と音の強さ・音の大きさの関係について、総まとめと総復習	吉武

成績評価の方法 (評価の基準)	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他() (80 %) (%) (%) (%) (20 %) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	短期間の講義なので欠席しないこと。講義後には必ず復習をして、理解を深めよう。
履修条件	

教科書	なし
参考書	言語聴覚士の音響学入門（吉田 友敬）

科目名	英語 1	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	講師調整中				
	(実務経験：有・無)				
科目担当者					
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 (主題)	Teaching medical terminology through participation in practical medical settings, using memorization and performance.
授業の到達目標	Language is useful only when used. The aim is for the students to be able to use English in their eventual work settings, with patients and staff.

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	Introductions and foundation of English as a communication tool.	
第 2 回	Basic interaction with patients	
第 3 回	Common symptoms and patient complaints	
第 4 回	Medical departments, medical history	
第 5 回	Cold symptoms, Asthma	
第 6 回	Psychiatric issues	
第 7 回	Ophthalmology issues, ENT・otitis	
第 8 回	Mid-term Test	
第 9 回	Pregnancy and OB-Gyn issues	
第 10 回	Stroke issues	
第 11 回	Intensive work with stroke issues	
第 12 回	Informed Consent, bronchoscopy	
第 13 回	Cancer issues	
第 14 回	Endocrine issues	
第 15 回	Review and examination preparation	

成績評価の方法 (評価の基準)	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	Students are expected to make notes of new vocabulary and sentence patterns with each class, not putting things off until just before the examination.
履修条件	Each student is required to use English in each class, performing dialogs, etc.

教科書	看護英会話入門
参考書	Lists of applicable sentence patterns and vocabulary are distributed for review before testing.

科目名	保健体育 1	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	森 日香里（所属 向陽学園 向陽高校）				
	（実務経験：無） 高校教員としての経験をもとに、学生の指導にあたる。				
科目担当者	森 日香里				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	森
第 2 回	レクリエーション	森
第 3 回	バスケットボール	森
第 4 回	バスケットボール	森
第 5 回	バレーボール	森
第 6 回	バレーボール	森
第 7 回	バドミントン	森
第 8 回	バドミントン	森

【変更後】

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(出席・態度) (%) (%) (%) (%) (%) (100 %)
準備学習 学習へのアドバイス	出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	キャリア教育 1			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として大学学生相談や民間相談機関、産業メンタルヘルス等でのカウンセリングに従事。企業研修やキャリア育成、就職支援に関する相談に携わった経験を元に講義を行う。						
科目担当者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） 河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	言語聴覚士という職業について、調べ学習やグループワーク等により理解を深め、自分が言語聴覚士としてどのようなキャリアを形成するのか考える機会とする。 また、自己分析や個人ワークなども取り入れ、自己理解を深める機会を持つことによって将来に向けて柔軟に成長できる力を育成し、長期的な視点でキャリアを積み上げていくための基盤を作ることを目的とする。
授業の到達目標	1. 言語聴覚士についての職業理解を深めることで自らのキャリアの方向性を認識し、その実現に向け具体的な行動に移すことができるようになる。 2. 自己分析を通じて自分の強みや弱み、興味、価値観を明確にし、自らの関心や特性を踏まえて積極的に将来像を考えられるようになる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション	城下
第 2 回	自己理解	城下
第 3 回	自己分析	城下
第 4 回	キャリアデザイン	城下
第 5 回	言語聴覚士を知る①	河野
第 6 回	言語聴覚士を知る②	河野
第 7 回	言語聴覚士を知る③	河野
第 8 回	言語聴覚士を知る④	河野

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他（発表） （ %） （ %） （ %） （ %） （ 50 %） （ 50 %）
準備学習 学習へのアドバイス	言語聴覚士として働く意義や関心を深められるよう、演習を取り入れながら行います。課題には積極的に参加し、自分自身について考える機会としてくれることを望みます。
履修条件	

教科書	必要に応じて資料を配布する
参考書	特になし

科目名	ホスピタリティー論 1	開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属 合同会社ヒューマンナガサキ）				
	（実務経験：有）ホスピタリティー業界での長年の職務経験と、企業や行政での研修経験を活かして指導にあたる				
科目担当者	田中 美吉子				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	・医療現場におけるホスピタリティーの重要性と接遇の基本を学ぶ。 状況が許す限り演習を交え、医療従事者に求められる接遇五原則を実践的に身につけていく。
授業の到達目標	日常生活や実習先においても、授業で学んだ他者への心配りを強く意識し、自ら考え行動化できるようになること。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	医療機関における接遇の重要性・医療従事者に求められる接遇とは	田中
第 2 回	状況に応じた挨拶、安心感を与える身だしなみ、表情、立居振舞い	田中
第 3 回	言葉づかい・敬語づかいの基本、間違いやすい敬語づかい	田中
第 4 回	心配りを感じさせる言葉づかいと話し方（小テスト実施）	田中
第 5 回	電話対応の基本・実習前のご挨拶と演習	田中
第 6 回	E メール、FAX、Line、御礼状のマナー	田中
第 7 回	患者さんとのコミュニケーション・傾聴の演習（聴くワーク）	田中
第 8 回	これまでの総復習 弱点克服 総合試験	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 演習評価 他者との関わり方 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(授業態度)
	(50 %) (%) (20%) (%) (%) (30%)
準備学習 学習へのアドバイス	接遇マナーを学ぶ授業であることを踏まえて授業に臨んでください。話を聞く姿勢やクラスメイトとの関わり方も評価の対象です。
履修条件	

教科書	なし プリントを配布
参考書	

科目名	レクリエーション技法			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	平山 仁（長崎県レクリエーション協会）						
	（実務経験：有）レクリエーション・インストラクター。レクリエーション運動の普及を目指し、講習会、指導者派遣などの事業を実施。その経験を元に、学生への指導にあたる。						
科目担当者	平山 仁（長崎県レクリエーション協会） 平山 百合子（ 同 上 ） 松本 佳子（ 同 上 ）						
学 科	言語療法学科					学 年	1 年
必修/選択	必修	授業の形態	講義/演習	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	レクリエーション活動の楽しさと意図的に活用するレクリエーション支援の手法について体験と解説を通して学ぶ
授業の到達目標	・レクリエーション活動の楽しさを実感させ、人との交流をとおした心の元気について理解を深める ・レクリエーションの主旨、レクリエーション支援について、体験と解説で理解を深め、レクリエーションがただ楽しいだけ、ゲームをするだけではないことを知る ・支援技術、ホスピタリティについて、心の仕組みと合わせて理解し、大切さと奥深さに気づく ・幼児及び高齢者の心身の特質を理解し、退所にあったレクリエーション技法を身につける

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	アイスブレーキングの理論と実際① ・アイスブレーキングモデルに準じたプログラム構成で、学生相互のアイスブレーキングを行いレクリエーション活動の体験をさせる ・レクリエーション活動をしたことによって個々の関わり、全体の雰囲気等、段階を経てどのように代わっていったかを解説する	平山 仁
第 2 回	アイスブレーキングの理論と実際② ・「同時発声・同時動作」や「一指示・一動作」の内容と効果について伝え、事例をとおして解説をする ・コミュニケーションの深化により集団の成長と支援についてテキストを活用して解説し理解させる	平山百合子
第 3 回	ホスピタリティの理論と実際① ・共感の積み重ねによって心の壁が取り除かれコミュニケーションが深まり、信頼関係が築かれていくことを体験したレクリエーション活動を再現しながら解説をする ・相手を受容し、共感的に理解させることが伝わる「聴き方」やプラスのストロークについて「配慮」と「技術」のポイントから解説し会話トレーニングを行うことでホスピタリティの理解を深めさせる	平山 仁

第4回	ホスピタリティの理論と実際② ・レクリエーションの目的と手法を活用した働きかけによる効果を体験をとおして再確認させる ・現場においてレクリエーション支援の手法が生かせることを確認させる	平山百合子
第5回	幼児等を対象としたレクリエーションの実際と理論 ・幼児や児童を対象としたレクリエーション活動を体験し、その展開、支援の技術を習得させる。 ・対象の理解を深めるため、幼児や児童の心身の特徴を理解させる ・集団を介して個人を支援させる技術を深めさせる	松本佳子
第6回	幼児等を対象としたレクリエーションの実際と理論 第5回と同様	松本佳子
第7回	高齢の方を対象としたレクリエーションの実際と理論 ・高齢者や特に支援を必要とする方々を対象としたレクリエーション活動例を体験し、その展開、支援の技術を習得させる ・高齢者や特に支援を必要とする対象者の理解を深めるため、その対象者の基本的な特徴を理解させる	平山百合子
第8回	高齢の方を対象としたレクリエーションの実際と理論 8コマのまとめ ・高齢者や特に支援を必要とする方々を対象としたレクリエーション活動例を体験し、その展開、支援の技術を習得させる ・既習事項を振り返り、レクリエーションの学びの深さを伝え、言語聴覚士への学びを応援する	平山百合子

成績評価の方法 (評価の基準)	■定期試験 (50%) ■実技試験 (50%) □実習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
準備学習 学習へのアドバイス	特になし
履修条件	特になし

教科書	グループレクリエーション・サポーター研修テキスト (公財)日本レクリエーション協会発行
参考書	楽しさをとおした心の元気づくり (レクリエーション支援の理論と方法) 基本のアイスブレーキング・ゲーム いずれも(公財)日本レクリエーション協会発行

科目名	医療福祉と社会問題			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として様々な社会背景を原因としたカウンセリングに従事。臨床実践について調査研究等を行った経験から、課題研究の指導を行う。						
科目担当者	城下未来・安藤隆一・河野武・田中美紀・中尾佳布（所属 同上）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	医療福祉に関する社会問題について興味・関心のあるテーマから問題提議し、グループで調査や実験等を通じて問題解決を図り、最終的にレポートをまとめ、発表を行う。 課題を設定し、そのことについて調べ解決する学習を通して、臨床実践に必要な情報収集の力と、自らの思考について根拠を持って説明する力を育む。
授業の到達目標	1. 現社会で起こっている事象に対し興味関心を持ち、疑問を持って主体的に考える 2. 目標に向かって計画的に考え、他者と協働しながら積極的に問題解決に取り組むことができる 3. 問題解決に必要な情報を収集し、他者に分かりやすく伝えることができる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション、課題研究の概要説明	
第 2 回	課題研究の計画、グループテーマの検討	
第 3 回	課題研究 計画立案	
第 4 回	研究・実験の実施	
第 5 回	〃	
第 6 回	〃	
第 7 回	中間発表	
第 8 回	中間発表	
第 9 回	研究の中間評価・研究計画の再設定	
第 10 回	研究・実験の実施	
第 11 回	〃	
第 12 回	〃	
第 13 回	〃	
第 14 回	〃	
第 15 回	研究発表	
第 16 回	研究発表	

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %） （ 100 %）
準備学習 学習へのアドバイス	グループに分かれて課題を行います。グループで課題を達成することを意識し、研究活動には責任を持って、積極的に参加してください。
履修条件	

教科書	特になし
参考書	特になし

科目名	コミュニケーション体験論			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	言語療法学科教員（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として成人分野、小児分野の臨床経験を通し、高齢者や子どもとのコミュニケーションの取り方について介護実習前後に指導する。						
科目担当者	言語療法学科教員						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	1	時間数	60

授業の概要 （主題）	・介護施設・保育園での実習を通して、高齢者・子どもとのコミュニケーションについて体験を通して学ぶ。 ・子どもの発達について、自らの知識と照らし合わせながら学ぶ。 ・高齢者の介護について学ぶ。
授業の到達目標	・子ども、高齢者とコミュニケーションを図れるようになる。 ・実習での経験をグループでまとめ、その発表を行えるようにする。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	オリエンテーション（保育実習）	城下	16	オリエンテーション（介護実習）	城下
2	オリエンテーション（保育実習）	城下	17	オリエンテーション（介護実習）	城下
3	保育実習準備	城下	18	介護実習準備	城下
4	保育実習準備	城下	19	介護実習準備	城下
5	保育実習準備	城下	20	介護実習準備	城下
6	学外実習（保育実習）	学科教員	21	学外実習（介護実習）	学科教員
7	学外実習（保育実習）	学科教員	22	学外実習（介護実習）	学科教員
8	学外実習（保育実習）	学科教員	23	学外実習（介護実習）	学科教員
9	学外実習（保育実習）	学科教員	24	学外実習（介護実習）	学科教員
10	学外実習（保育実習）	学科教員	25	学外実習（介護実習）	学科教員
11	学外実習（保育実習）	学科教員	26	学外実習（介護実習）	学科教員
12	学外実習（保育実習）	学科教員	27	学外実習（介護実習）	学科教員
13	学外実習（保育実習）	学科教員	28	学外実習（介護実習）	学科教員
14	保育実習まとめ発表	城下	29	介護実習まとめ発表	城下
15	保育実習まとめ発表	城下	30	介護実習まとめ発表	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (%) (%) (100%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	実習で必要とする全ての専門書
参考書	

科目名	医学総論			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	松屋 福蔵（所属 長崎医療センター 泌尿器科 非常勤医師）						
	（実務経験：有）1978年に医師となり、以後、各地の病院にて主に泌尿器科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに医学、医療の全体像（医学概論）について講義予定。						
科目担当者	松屋 福蔵						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	・将来、医療に従事する中、問題を見つけ、解決策を模索する姿勢を身につける。あふれる情報の中、的確に情報を収集、整理、活用する習慣を身につける。各授業は前半を基本事項、後半を専門基礎分野を組み合わせで進めていく予定です。（概略は下記）
授業の到達目標	・教科書（医学概論）を理解できる。・日常目にする情報にも触れつつ日々進歩、変化する医学、医療に目を向ける習慣をつける。・種々の医学用語、基礎的な解剖生理学を概略、理解できる。・代表的な病態、疾患について自学できる基礎を作る。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	医学概論の総論 授業の進め方 基本事項（第1章～3章）	松屋
第2回	基本事項（第12章） 主に感染症関連を中心に	〃
第3回	基本事項（第7章～8章）	〃
第4回	基本事項（第9章～13章）	〃
第5回	専門基礎分野（第4章）	〃
第6回	専門基礎分野（第5章）	〃
第7回	専門基礎分野（第6章）	〃
第8回	講義のまとめと試験について	〃
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	・教科書を中心に頭の中を整理する。 ・新聞、TVなどからの正確な情報収集と整理。 ・動画などを有効に利用し、要点だけでもノートにまとめておく。
履修条件	やる気と自己の健康管理（疲れたら休みましょう）（自分の健康が大前提です）

教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト「医学概論 改訂7版」 中外医学社
参考書	Webサイトの利用：玉塾 出直し看護塾 理学療法士国家試験対策シリーズ など 医療、医学情報：新聞、NHK（サイエンスなど）

科目名	解剖学 A	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）言語聴覚士。病院・訪問看護ステーションにて勤務。急性期～生活期まで幅広く経験あり。臨床現場での経験をもとに、言語聴覚士として必要な解剖学の知識を解剖学 A の中で指導にあたる。				
科目担当者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	3
				時間数	45

授業の概要 （主題）	各分野の基礎となる人体の正常構造とその体系を学習する 人体構造の基本原則、骨格系・筋系・消化器系・循環器系・発生・血液系・泌尿系・生殖器系・内分泌系について理解を深める
授業の到達目標	人体解剖学の基本体系を理解し、説明することが出来る。 骨格系、筋系、消化器系、循環器系などの概要を十分に理解し、説明することが出来るようになる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	総論①	河野	16	血液系①	河野
2	総論②	〃	17	血液系②	〃
3	骨格系①	〃	18	生体防御系①	〃
4	骨格系②	〃	19	生体防御系②	〃
5	骨格系③	〃	20	泌尿・生殖器・内分泌系①	〃
6	筋系①	〃	21	泌尿・生殖器・内分泌系②	〃
7	筋系②	〃	22	感覚器・発生①	〃
8	筋系③	〃	23	感覚器・発生②	〃
9	消化器系①	〃			
10	消化器系②	〃			
11	消化器系③	〃			
12	消化器系④	〃			
13	循環器系①	〃			
14	循環器系②	〃			
15	循環器系③	〃			

成績評価の方法	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☒ その他 （評価の基準） (80%) (%) (%) (10%) (%) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	講義後は復習をしっかりとこなして下さい。 日々の小テストを大事にして下さい。
履修条件	

教科書	からだが見える 人体の構造と機能 第1版（メディックメディア）
参考書	必要に応じて紹介します。

科目名	解剖学 B			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）。言語聴覚士。病院・訪問看護ステーションにて勤務。急性期～生活期まで幅広く経験あり。臨床現場での経験をもとに、言語聴覚士として必要な神経系の解剖学の指導にあたる。						
科目担当者	河野 武						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	神経系の仕組み、働きを理解し専門科目につながる基礎を確立する。
授業の到達目標	1. 中枢神経系・末梢神経系の仕組み働きを言葉だけで無く視覚的にも理解する。 2. 脳脊髄液の循環を理解し説明できる。 3. 脳血流を理解し図示できると共に機能局在の観点から説明できる。 4. 脳神経の種類と働き、特に発声発語に結びつく神経について、その働きを説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	神経系の基本用語、神経細胞ニューロンについての解剖	河野
第 2 回	体性神経と自律神経	河野
第 3 回	脊髄の解剖	河野
第 4 回	大脳半球の解剖	河野
第 5 回	大脳半球の解剖	河野
第 6 回	大脳半球の機能局在	河野
第 7 回	大脳髄質の線維の仕組み 錐体路・錐体外路の違い	河野
第 8 回	大脳基底核を捉える	河野
第 9 回	間脳の解剖生理 視床・視床下部	河野
第 10 回	脳幹の解剖生理	河野
第 11 回	小脳の解剖生理	河野
第 12 回	脳脊髄液の循環の仕組み	河野
第 13 回	脳血流を捉える	河野
第 14 回	12 脳神経を理解する	河野
第 15 回	12 脳神経を理解する	河野
第 16 回	プレテスト・質疑応答	河野

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (80%) (%) (%) (10%) (%) (10 %)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	病気が見える脳・神経：メディックメディア脳の地図帳：講談社
参考書	

科目名	生理学			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	中尾 タ子（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）						
	（実務経験：☑有・□無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに生命現象の仕組みや意義について講義する。						
科目担当者	中尾 タ子						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	3	時間数	45

授業の概要 （主題）	生命現象の仕組みや意義について学ぶ。
授業の到達目標	1. 生理学に関する用語について理解する。 2. 人体の正常な働きについて理解する。 3. 生体機能がどのように影響しあっているか理解する。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	生命現象と人体	中尾	16	呼吸とガスの運搬②	中尾
2	細胞の構造と機能	中尾	17	尿の生成と排泄	中尾
3	神経の興奮伝導と末梢神経①	中尾	18	消化と吸収①	中尾
4	神経の興奮伝導と末梢神経②	中尾	19	消化と吸収②	中尾
5	神経の興奮伝導と末梢神経③	中尾	20	栄養と代謝	中尾
6	中枢神経系①	中尾	21	内分泌	中尾
7	中枢神経系②	中尾	22	生殖と発生、成長と老化	中尾
8	中枢神経系③	中尾	23	まとめ	中尾
9	筋と骨	中尾			
10	感覚①	中尾			
11	感覚②	中尾			
12	血液	中尾			
13	心臓と循環①	中尾			
14	心臓と循環②	中尾			
15	呼吸とガスの運搬①	中尾			

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート ☑その他(課題) (90%) (%) (%) (%) (%) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	テキストの該当箇所を読んで予習しておいてください。 解剖学と合わせて学習すると理解しやすくなります。
履修条件	私語は慎むこと、配布資料を忘れず持参すること

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院）
参考書	からだが見える―人体の構造と機能―（MEDIC MEDIA）

科目名	病理学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	熊谷 謙治（医学博士 整形外科医師）				
	（実務経験：有） 病理学は大学院在籍時および留学時に研鑽を重ね、その間厚労省認定の人体解剖、病理解剖および司法解剖の資格を取得。加えて医師としての臨床経験をもとに病理学概論の指導にあたる。				
科目担当者	熊谷 謙治				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	病理学概論
授業の到達目標	国家試験レベルへの到達

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	総論	熊谷
第 2 回	病因論	〃
第 3 回	病理学的変化（細胞障害・代謝障害）	〃
第 4 回	病理学的変化（炎症・修復・再生・線維化）	〃
第 5 回	病理学的変化（変性疾患）	〃
第 6 回	病理学的変化（腫瘍）	〃
第 7 回	病理学的変化（循環器疾患・骨関節疾患）	〃
第 8 回	感染・消毒	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	「図解 ワンポイント病理学」（岡田英吉、サイオ出版）
参考書	「標準病理学」,

科目名	内科学	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	講師調整中（所属）				
	（実務経験：有・無） 市立大村市民病院に依頼中				
科目担当者	講師調整中				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	内科学 ～症候学、診断学、臓器別各論～
授業の到達目標	1. 内科学とリハビリテーション医療についての理解を深める 2. 各臓器の働きや、主要な疾患概念を理解し、疾患を持つ患者のリハビリテーションについて学習する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	内科学総論／診断と治療の実際：医療面接	講師調整中
第 2 回	診断と治療の実際：診察と臨床検査	〃
第 3 回	循環器疾患①	〃
第 4 回	循環器疾患②	〃
第 5 回	呼吸器疾患	〃
第 6 回	消化器疾患	〃
第 7 回	肝胆膵疾患	〃
第 8 回	血液・造血器疾患	〃
第 9 回	代謝性疾患	〃
第 10 回	内分泌疾患	〃
第 11 回	腎・泌尿器疾患①	〃
第 12 回	腎・泌尿器疾患②	〃
第 13 回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	〃
第 14 回	感染症	〃
第 15 回	症候学	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	復習を積極的に行うこと。
履修条件	

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学
参考書	

科目名	精神医学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士）						
	（実務経験：有）精神科領域の作業療法士として、臨床現場での経験を活かし指導にあたる						
科目担当者	鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士） 中野 心介（大村共立病院 精神保健指定医） 講師調整中						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	1) 臨床症状的視点・社会適応的視点からみた各精神障害の自然史 2) 各精神障害の臨床経過・転帰に影響を及ぼす治療法、治療環境、治療促進・阻害要因 3) 各精神障害の各臨床ステージにおける症状群から患者の機能障害、活動・活動制限、参加・参加制約などの系統的な評価について概説する。
授業の到達目標	1) 各精神障害の精神症状が説明できる。 2) 各精神障害の臨床経過が説明できる。 3) 各精神障害の治療法が説明できる。 4) 各精神障害の社会的転帰が説明できる。 5) 臨床実践に必要な法律が説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1/2 回	精神医学の概念と関連領域（精神症状の分類を含む）	鎌田
第 3/4 回	統合失調症 病因、基本症状、臨床経過、治療、臨床経過と転帰	鎌田
第 5 回	気分障害 病因、基本症状、臨床経過	中野
第 6 回	気分障害 治療、転帰	中野
第 7/8 回	神経症性障害、ストレス関連障害および行動症候群、てんかんに関する病因、基本症状、臨床経過、治療、転帰	中野
第 9/10 回	器質性精神障害（認知症を主とし、病因、基本症状、臨床経過 治療、転帰）	鎌田
第 11 回	精神作用物質・その他使用による精神および行動の障害 病因、基本症状、臨床経過	中野
第 12 回	成人のパーソナリティおよび行動の障害 基本症状、臨床経過	講師調整中
第 13/14 回	児童・思春期の精神障害 基本症状、臨床経過	講師調整中
第 15 回	包括的治療（薬物療法、心理社会的療法など）	鎌田
第 16 回	法律（精神保健福祉法など）	鎌田

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	教科書等で予備知識を持つこと。
履修条件	必修科目である。

教科書	太田保之・上野武治(編集)：学生のための精神医学第3版，医歯薬出版株式会社，2014，
参考書	必要時、授業で紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	福田 健一／長崎リハビリテーション学院 （実務経験： ☒ 有・ ☐ 無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハビリテーション医学全般に関する基本的な知識について講義を行う。				
科目担当者	福田 健一／長崎リハビリテーション学院 理学療法学科				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職種の一員として、リハビリテーションの対象となる障害について学ぶ。
授業の到達目標	1. 障害の捉え方について理解する。 2. 障害の発生機序、対処法、予防法について理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	リハビリテーション医学総論	福田健
第 2 回	障害の理解（廃用症候群）	福田健
第 3 回	障害の理解（関節可動域障害）	福田健
第 4 回	障害の理解（運動障害）	福田健
第 5 回	障害の理解（筋緊張異常／歩行障害）	福田健
第 6 回	障害の理解（呼吸機能障害）	福田健
第 7 回	障害の理解（循環機能障害）	福田健
第 8 回	障害の理解（加齢による障害）	福田健

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	テキストの該当箇所を読んでおくこと
履修条件	必ず出席すること、私語は慎むこと、配布資料は忘れず持参すること

教科書	リハビリテーションビジュアルブック
参考書	必要に応じて紹介する

科目名	耳鼻咽喉科学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	田中 藤信（所属 長崎医療センター 耳鼻咽喉科 部長）						
	（実務経験：有）長崎医療センター 耳鼻咽喉科。部長。病院にて医師として勤務。専門分野は耳鼻咽喉科全般、内視鏡下鼻内手術、頭頸外科。臨床現場での経験をもとに耳鼻咽喉科学の指導にあたる。						
科目担当者	田中藤信 他 （所属 長崎医療センター 耳鼻咽喉科 医師）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	言語聴覚士として必要な耳鼻咽喉科の解剖・生理・疾患に関する基礎知識を学習する
授業の到達目標	1. 中耳・内耳の基礎的解剖・聴覚生理を学習し、聴力検査の意義を理解する 2. 咽頭・喉頭の基礎的解剖を学習し、発声・構音の機構を理解する 3. 気管・食道の基礎的解剖を学習し、嚥下の機構を理解する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	音と音声の基礎、聴覚前庭系の解剖と生理、聴覚の発達	吉田
第 2 回	耳科学的検査・聴覚検査・乳幼児聴覚検査	吉田
第 3 回	耳科疾患の診断・治療	吉田
第 4 回	補聴器と人工内耳	吉田
第 5 回	小児・成人の聴覚障害への対応	吉田
第 6 回	平衡機能障害・耳鳴りの概論	吉田
第 7 回	鼻・副鼻腔の構造と機能、鼻科学的検査、鼻・副鼻腔疾患の症候、診断、治療	田中
第 8 回	口腔・咽頭の構造と機能、口腔・咽頭の検査	澤瀬
第 9 回	口腔・咽頭の疾患と症候、診断、治療、	澤瀬
第 10 回	喉頭の機能構造、喉頭学的検査、	神田
第 11 回	喉頭疾患の症候・診断・治療	神田
第 12 回	気管・気管支・食道の解剖と検査	田中
第 13 回	気管・気管支・食道の疾患の診断、治療、気管切開の適応、術後管理	田中
第 14 回	摂食・嚥下障害のメカニズム	田中
第 15 回	摂食・嚥下訓練での S T の対応 総括	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 100% ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	受講後の復習を行って下さい
履修条件	

教科書	言語聴覚士のための基礎知識、耳鼻咽喉科
参考書	

科目名	臨床神経学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	河合 正行（元長崎リハビリテーション学院 専任講師）						
	（実務経験：有）国立病院機構にて理学療法士として勤務。その臨床経験をもとに、神経内科疾患各種の病態・障害像について指導する。						
科目担当者	河合 正行						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職として必要な神経内科学の概念と基礎知識をグループで学習する。決められた範囲について自分たちで調べて分かりやすく講義する。他の学生にどう分かりやすく伝えられるか、1コマ1時間程度に上手にまとめる。
授業の到達目標	1)医学用語の意味を理解し、正しく記載でき適切に使用できる 2)診察所見や検査所見について、正常と異常を区別できる 3)主要な神経内科疾患や外傷で、その病態・症状・所見・治療を理解する 4)神経内科学で学んだ知識を、他の科目と関連づけて理解する 5)国家試験における神経内科分野の問題が解ける

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	総論：中枢神経系の解剖と機能(14－31)	河合
第 2 回	総論：神経学的診断と評価(35－50)	〃
第 3 回	総論：神経学的検査法(51－67)	〃
第 4 回	神経症候学：意識障害・脳死・植物状態・頭痛・めまい(71－78)	〃
第 5 回	神経症候学：運動麻痺・錐体路徴候・不随意運動・運動失調(79－98)	〃
第 6 回	感覚障害・高次脳機能障害・失語症(99－119)	〃
第 7 回	高次脳機能障害・失認・失行・記憶障害(120－142)	〃
第 8 回	注意障害・遂行機能障害・構音障害・嚥下障害・脳外科領域(143－169)	〃
第 9 回	神経疾患各論（脳血管障害）(173－203)	〃
第 10 回	各論（認知症・脳腫瘍・外傷性脳損傷）(204－237)	〃
第 11 回	各論（脊髄疾患・変性疾患・脱髄疾患）(238－261)	〃
第 12 回	各論（錐体外路の変性疾患・末梢神経障害・てんかん）(262－287)	〃
第 13 回	各論（筋疾患・感染性疾患・中毒性疾患・小児疾患・廃用）(288－350)	〃
第 14 回	神経内科学のまとめ(スライド講義)	〃
第 15 回	臨床筋電図のとりかた（デモンストレーション）日本光電	〃
第 16 回	授業全体のまとめ（スライド講義）	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	正しく専門用語や医療用語を使い、できるだけ分かりやすく説明できるよう調べ、分からないことは積極的に質問をするように。
履修条件	定期試験には国試過去問から出題するのでなぜこの回答なのか説明できるように。

教科書	標準理学療法学・作業療法学（神経内科学）第4版編集川平和美 医学書院
参考書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）

科目名	臨床歯科医学口腔外科学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	中村 修二（なかむら 歯科 院長）						
	（実務経験：有）歯科医師。臨床現場での経験をもとに臨床歯科医学口腔外科学の指導にあたる。						
科目担当者	中村 修二、田中 朝子（長崎県歯科衛生士会 歯科衛生士）（実務経験：有）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	歯科学基礎から臨床を学ぶ。 リハビリテーションの専門職として必要な口腔内や口腔ケアの基礎知識を学習する。
授業の到達目標	1. 国家試験に必要な知識の習得および卒業後に役に立つ臨床の知識の習得。 2. 口腔内状況を理解できる。 3. 口腔ケアを理解できる。 4. 口腔機能向上に関わる多職種連携を理解できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能	中村
第 2 回	〃	中村
第 3 回	歯・口腔・顎・顔面の疾患	中村
第 4 回	〃	中村
第 5 回	口腔・顎・顔面の機能障害の診断	中村
第 6 回	〃	中村
第 7 回	口腔・顎・顔面の機能障害の治療	中村
第 8 回	〃	中村
第 9 回	まとめ、および補足（骨学等）	中村
第 10 回	〃	中村
第 11 回	多職種との関わり	田中
第 12 回	口腔内状況の見方	田中
第 13 回	口腔と全身	田中
第 14 回	口腔ケア用品、口腔ケア方法の習得	田中
第 15 回	口腔ケアの各自と相互実習	田中
第 16 回	総括	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (50%) (%) (50%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	口腔内状況と全身への影響を知ることで、毎日の習慣が大きな予防となる様に生かして欲しい。
履修条件	出席し真摯な受講態度を望む。

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科学・口腔外科学
参考書	なし

科目名	呼吸発声発語系の解剖生理			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、発声発語器官のメカニズムについて講義する。						
科目担当者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	言語表出に至る過程を理解する。各器官の名称と働きを覚える。
授業の到達目標	1. 言語音が発声される過程を理解する。 2. 呼吸器系の構造と働き、名称を覚える。 3. 喉頭の構造と働き、名称を覚える。 4. 口腔器官の構造と働き、名称を覚える。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	言語音の生成過程について	田中
第 2 回	呼吸器系について	〃
第 3 回	〃	〃
第 4 回	〃	〃
第 5 回	〃	〃
第 6 回	〃	〃
第 7 回	喉頭について	〃
第 8 回	〃	〃
第 9 回	〃	〃
第 10 回	〃	〃
第 11 回	〃	〃
第 12 回	声道について	〃
第 13 回	〃	〃
第 14 回	〃	〃
第 15 回	総括	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他() (90%) (%) (%) (%) (%) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	復習をおこない知識を定着させるようにしてください。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	発声発語障害学 第2版
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	聴覚系の解剖生理	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	中尾 佳布（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）言語聴覚士。病院にて勤務。精神科。脳外科、回復期リハビリテーション病棟など幅広く経験。その臨床現場での経験をもとに、言語聴覚士として必要な聴覚系の解剖生理の指導にあたる。				
科目担当者	中尾 佳布（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	・聴覚系の解剖（構造）と生理（機能）について学ぶ。 ・聴覚系を障害する疾患（病態）と治療について学ぶ。 ・各種難聴について学ぶ
授業の到達目標	・聴器（外耳・中耳・内耳・後迷路）の解剖を理解し、説明することができる。 ・聴器の解剖に基づいて、聴覚の生理（機能）を理解し、説明することができる。 ・聴器の病態（疾患）を理解し、説明することができる。 ・難聴について理解し、説明することができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	聴覚系の解剖①（外耳について）	中尾
第 2 回	〃 ②（中耳について）	〃
第 3 回	〃 ③（中耳について）	〃
第 4 回	〃 ④（内耳について）	〃
第 5 回	〃 ⑤（内耳について）	〃
第 6 回	〃 ⑥（内耳について）	〃
第 7 回	〃 ⑦（蝸牛神経の聴覚伝導路の構造と機能）	〃
第 8 回	〃 ⑧（大脳聴皮質の構造と機能。聴覚失認、皮質聾など）	〃
第 9 回	聴覚系の生理①	〃
第 10 回	〃 ②、聴器の発生・発達	〃
第 11 回	難聴について①（伝音難聴）	〃
第 12 回	〃 ②（伝音難聴）	〃
第 13 回	〃 ③（感音難聴）	〃
第 14 回	〃 ④（感音難聴）	〃
第 15 回	〃 ⑤（混合性、機能性難聴など）	〃
第 16 回	復習	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他（ ） （90%） （ %） （ %） （ %） （ %） （ 10%）
準備学習 学習へのアドバイス	復習をしっかりとお願いします。
履修条件	特になし

教科書	メディックメディア：病気がみえる 13 耳鼻咽喉科学
参考書	必要に応じて紹介します。

科目名	生涯発達心理学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスでのカウンセリングに従事した経験をもとに発達心理学の知識について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	生涯発達とは、人間が受精から死に至るまでの生涯にわたるさまざまな変化について、探求する学問である。本講義では、人間の成長と生涯発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的特徴や発達課題等について理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	・人間の各発達時期における身体的・心理的な特徴や発達課題を理解する ・幼少期の認知と感情・社会性に関する心身の発達、及び学習の過程や児童期の認知発達と学習の基礎に関する内容への理解を深める ・生涯発達の視点から、成人期以降の発達と課題について理解を深める

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション：生涯発達心理学の概説	城下
第 2 回	生涯発達心理学の基礎：発達の規定要因、発達研究	城下
第 3 回	発達理論①	城下
第 4 回	発達理論②	城下
第 5 回	新生児期・乳児期の発達①	城下
第 6 回	新生児期・乳児期の発達②	城下
第 7 回	新生児期・乳児期の発達③	城下
第 8 回	幼児期の発達①	城下
第 9 回	幼児期の発達②	城下
第 10 回	幼児期の発達③	城下
第 11 回	児童期の発達	城下
第 12 回	青年期の発達	城下
第 13 回	成人期の発達	城下
第 14 回	中年期の発達	城下
第 15 回	老年期の発達	城下
第 16 回	まとめ	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 80% ） （ % ） （ % ） （ 20% ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	授業毎の復習を積極的に行い、知識の定着に努めること
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）
参考書	講義中に適宜紹介する

科目名	学習認知心理学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	橋口 晋（所属 臨床心理士・公認心理師）						
	（実務経験：有）日本心理学会、日本発達心理学会等所属学会多数。長崎県スクールカウンセラー、長崎労働局メンタルヘルス巡回研修講師兼相談員など多数のカウンセリング業務を兼任。現場での経験をもとに学習認知心理学の指導にあたる。						
科目担当者	橋口 晋						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	情報処理に関する知見や、行動変容の原理およびその応用に必要な知識を学ぶ
授業の到達目標	情報処理に関する心理学の基礎知識を説明できる 行動変容の原理とその応用に必要な知識を説明できる 国家試験に対応できる形で上記の知識を整理する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	感覚 刺激閾・弁別閾・色覚（視細胞・反対色説・補色）	橋口
第 2 回	知覚 幾何学的錯視・知覚の恒常現象・奥行き知覚	〃
第 3 回	知覚 知覚における刺激側や主体側の要因・運動の知覚	〃
第 4 回	記憶 忘却曲線・系列位置効果・二重貯蔵庫モデル	〃
第 5 回	記憶 処理水準・符号特殊化・日常の記憶	〃
第 6 回	記憶 知識の表象と構造	〃
第 7 回	注意 選択的注意・初期選択説と後期選択説	〃
第 8 回	学習 死人テスト・古典的条件付け・実験神経症	〃
第 9 回	学習 オペラント条件付け・効果の法則・随伴性	〃
第 10 回	学習 オペラント条件付け・好子・嫌子	〃
第 11 回	学習 オペラント条件付け・刺激性制御・確立操作・課題分析	〃
第 12 回	学習 オペラント条件付け・行動的翻訳・シェイピング・チェイニング	〃
第 13 回	学習 学習性無気力・失敗の原因帰属・認知療法	〃
第 14 回	学習 技能学習	〃
第 15 回	学習 社会的学習	〃
第 16 回	学習 洞察・潜在的学習	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100 %) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	専門用語が多いので復習すること
履修条件	真摯な受講態度を望む

教科書	講義では、配布するプリントを使用します
参考書	授業中に紹介する

科目名	言語学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	松崎 舞子（島原国際日本語学校）						
	（実務経験：有）島原国際日本語学校、Kokoro College Japan、鎮西学院大学などで非常勤日本語講師を務める。豊富な日本語教育の経験をもとに、言語学の指導にあたる。						
科目担当者	松崎 舞子						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	本科目では身の周りに溢れていることばを新しい考え方で捉え直すことで、ことばの役割と自分と社会との関係について考えます。受講生自身が授業をすることで、普段何気なく使用していることばについての認識を新たにするとともに、言語支援の場作りを実践します。言語学の基礎知識を身に付け、自分が目指す ST 像に近づけるような支援のあり方を考えましょう。
授業の到達目標	1. 自分や身の回りの言語使用を見直し、ことばについての認識を新たにします。 2. ことばと社会との関係がどのように成り立っているかを考える。 3. 言語指導・支援を行う際の基礎となるような言語のもつさまざまな性質を理解する。 4. 国家試験が解ける知識を身に付ける。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	シラバスについて／受講生授業について	松崎
第 2 回	1-1 言語とは何か／1-2 言語の基本的な性質	松崎
第 3 回	1-3 言語の特徴／2-1 音素	松崎
第 4 回	受講生授業 1 【じゃんけんグリコ／音の区切り方／特殊拍／音素としての特殊拍】	松崎
第 5 回	2-2 アクセント／2-3 形態音韻論	松崎
第 6 回	受講生授業 2 【母音の交替／子音の交替／連濁】	松崎
第 7 回	3-1 語とは何か／3-2 語の成り立ち	松崎
第 8 回	受講生授業 3 【3-3 語種】／3-4 語の意味	松崎
第 9 回	受講生授業 4 【3-5 動詞の活用と自他】／4-1 格関係と項	松崎
第 10 回	4-2/4-3 文法カテゴリー（ヴォイス、テンス、アスペクト、モダリティ）	松崎
第 11 回	受講生授業 5 【4-4 複文】	松崎
第 12 回	5-1 地域方言／受講生授業 6 【5-2 社会方言】	松崎
第 13 回	5-3 敬語・やさしい日本語	松崎
第 14 回	5-4 言語変化／6-1 言語における文字	松崎
第 15 回	6-2 漢字／6-3 仮名／6-4 表記法	松崎

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （70%） （ %） （30%） （ %） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	グループで 1 つのテーマについて授業をしてもらいます。事前にメンバー全員で授業内容についてしっかりと勉強し、学習者にわかりやすい教え方を工夫しましょう。授業内容で国家試験を扱う場合は、問題が解ける程度の知識を提供してください。講義予定に準備時間はありませんので、計画的に進めて下さい。
履修条件	受講生授業では、必ず一人ひとりが役割を持って主体的に取り組むようにしてください。
教科書	Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学
参考書	

科目名	音声学 1	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	笹栗 淳子（所属 長崎純心大学人文学部 教授） （実務経験：有）専門分野は日本語教育 言語学。所属学会は日本言語学会、日本語学会、日本語教育学会など。大学での研究実績や留学生への日本語指導の経験をもとに音声学の指導にあたる。				
科目担当者	笹栗 淳子（所属 長崎純心大学人文学部 教授）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	言語の基本である音声について学習する。人間が音声を作る仕組みである「構音」に焦点を当て授業を進める。
授業の到達目標	1. 構音の仕組みを理解できる 2. 国際音声字母(IPA)について理解できる 3. 日本語を IPA で書くことができる 4. 音素と音声の違いを理解出来る 5. 日本語の音韻的特徴を理解する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション・音声学とは	笹栗
第 2 回	日本語の音声的特徴	笹栗
第 3 回	音声生成の 3 要素・母音の定義 基本 8 母音	笹栗
第 4 回	日本語の母音（アイウエオ）	笹栗
第 5 回	子音の仕組み IPA について	笹栗
第 6 回	閉鎖音・鼻音・摩擦音・弾き音・接近音（カ・サ・タ・ナ・ハ・マ・ヤ・ラ・ワ行）	笹栗
第 7 回	破擦音・ハ行音・歴史的背景（フ）	笹栗
第 8 回	硬口蓋化（シ・チ・ニ・ヒ）	笹栗
第 9 回	拗音・四つ仮名・連濁（ジ/ヂ・ズ/ヅ）	笹栗
第 10 回	摩擦有声音と破擦有声音	笹栗
第 11 回	音韻論・促音（っ）長音（ー）撥音（ん）	笹栗
第 12 回	子音まとめ	笹栗
第 13 回	音素を分析する・日本語を IPA と音素で書く	笹栗
第 14 回	日本語の特徴を考える	笹栗
第 15 回	総復習	笹栗

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 100% ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	授業の初めに毎回復習の小テストを行う。事前にノートとテキストを読み返す時間をとること。
履修条件	

教科書	日本語教育よくわかる音声, アルク, 2018
参考書	授業中に紹介する

科目名	音響学			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	山口雅史（所属 白石共立病院 言語聴覚士）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として病院に勤務。臨床現場での経験をもとに、言語聴覚士として必要な音響学の指導にあたる。						
科目担当者	山口雅史（所属 白石共立病院 言語聴覚士）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	音を‘診る’ために必要な基礎知識から応用までを学ぶ。
授業の到達目標	・ [Hz][Pa][dB]など音響学に欠かせない単位について理解する ・ 音響学と音声学、解剖学との繋がりを理解する ・ サウンドスペクトログラムを理解し音響分析を行える

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	音響学概論 音の性質について	山口
第 2 回	音響数学	山口
第 3 回	周波数と周期	山口
第 4 回	デシベルについて（１）	山口
第 5 回	デシベルについて（２）	山口
第 6 回	SPL,HL,SL,IL の違い	山口
第 7 回	音響分析 VOT の測定	山口
第 8 回	音響分析：formant について	山口
第 9 回	音響分析基礎：母音のサウンドスペクトログラム	山口
第 10 回	音響分析基礎：子音のサウンドスペクトログラム	山口
第 11 回	音響分析：音声障害(1)	山口
第 12 回	音響分析：音声障害(2)	山口
第 13 回	音響分析：構音障害(1)	山口
第 14 回	音響分析：構音障害(2)	山口
第 15 回	デジタル信号処理	山口
第 16 回	総復習	山口

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (5 0 %) (%) (%) (5 0 %) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	復習を重点的に行ってください。
履修条件	必須科目

教科書	言語聴覚士のための音響学, 今泉敏著, 医歯薬出版株式会社
参考書	言語聴覚士の音響学入門 2 改訂版, 吉田友敬, 海文堂出版 ゼロからはじめる音響学, 青木直史, 講談社

科目名	聴覚心理学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	藤澤 望（長崎県立大学情報システム学部情報システム学科）						
	（実務経験：無）						
科目担当者	藤澤 望						
学科	言語療法学科					学年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	聴覚心理学とは、音の物理的側面とそれを聴取した際の「聴こえ」である心理的側面を関連づける学問である。本科目では、国家試験の過去問題を踏まえながら聴覚心理学の基礎的な事項を解説し、国家試験に必要な知識の修得を目指す。
授業の到達目標	1. 聴覚心理学の基礎的な用語や概念を理解する。 2. 国家試験に必要な聴覚心理学分野の知識を修得する。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	音の心理物理学①：閾値，可聴範囲，弁別閾	藤沢
第2回	音の心理物理学②：大きさ（ラウドネス）	藤沢
第3回	音の心理物理学③：高さ（ピッチ）	藤沢
第4回	音の心理物理学④：音色，時間と時間的パタンの知覚	藤沢
第5回	聴覚フィルタ・臨界帯域	藤沢
第6回	マスキング現象	藤沢
第7回	両耳の聴こえ	藤沢
第8回	環境と聴覚	藤沢

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 100% ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	各回のテーマとなっている範囲の国家試験過去問を予習してくること。
履修条件	言語聴覚士に必須の知識となるので、毎回必ず出席すること。

教科書	言語聴覚士の音響学入門 [2 訂版], 吉田友敬, 海文堂出版, 2020. その他、適宜プリントを配布する。
参考書	聴覚と音響心理, 境久雄, コロナ社, 1978. 聴覚心理学概論, B.C.J.ムーア, 誠信書房, 1994.

科目名	社会保障制度			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	飛永 高秀（長崎純心大学 人文学部 福祉・心理学科 教授）						
	（実務経験*：有）特別養護老人ホームにて介護職員として勤務経験後、研究・教育職に従事。それらの経験をもとに社会保障に関して講義を行う。						
科目担当者	飛永 高秀						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	福祉対象者に対するソーシャルワークについて理解する。 福祉対象者に対する各福祉分野における社会資源について、社会保障の観点から理解する。
授業の到達目標	臨床の場で活用できる知識を身につける。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	社会保障制度について	飛永
第 2 回	社会福祉サービスについて①	〃
第 3 回	社会福祉サービスについて②	〃
第 4 回	社会福祉サービスについて③	〃
第 5 回	保健・医療・福祉サービスの連携について	〃
第 6 回	保健・医療・福祉サービスの専門職について	〃
第 7 回	制度における援助者の枠組みとその技術	〃
第 8 回	まとめ	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 （ 100% ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 実習評価 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ その他（ ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	社会保障入門
参考書	

科目名	リハビリテーション概論 1	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	小谷 泉（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有・無）病院にて療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハビリテーション概論 1 を学ぶために必要な基礎知識について講義する。				
科目担当者	小谷 泉・桑原 由喜・河野 武・橋口 将大（長崎リハビリテーション学院） 松尾 みき（大村市医師会訪問看護ステーション 作業療法士） 山本 真司（日浦病院 理学療法士）				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	・リハビリテーション専門職の学びに必要な共通かつ基本的な概念について学習する。 ・リハビリテーションチームにおけるそれぞれの専門職の役割を学習する。 ・リハビリテーションの流れを知り、これからの学習における動機づけを行う。
授業の到達目標	・リハビリテーションとは何か説明できる ・障害の捉え方について知り、考えることができる ・リハビリテーションの流れを理解することができる

授業計画		
回数	内 容	担当
1	リハビリテーションとは？（定義や歴史）	小 谷
2	ノーマライゼーション、IL 運動	小 谷
3	障害の捉え方 ①国際生涯分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF) ②障害受容	小 谷
4	リハビリテーションの分類	小 谷
5	予防医学の理解とリハビリテーション	小 谷
6	多職種連携の理解、チーム医療論、カンファレンス	小 谷
7	リハビリテーションを支える社会保障制度(1)	小 谷
8	リハビリテーションを支える社会保障制度(2)	小 谷
9	理学療法ならびに理学療法士について	橋 口
10	言語聴覚療法ならびに言語聴覚士について	河 野
11	作業療法ならびに作業療法士について	桑 原
12	地域包括ケアシステム 総論①	松 尾
13	地域包括ケアシステム 総論②	松 尾
14	地域包括ケアシステム 各論①	山 本
15	地域包括ケアシステム 各論②	山 本

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	先入観にとらわれず、思考を柔軟にして授業に臨んでください。
履修条件	

教科書	随時、資料を配布します。
参考書	

科目名	言語聴覚障害概論			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験を基に、言語聴覚士の業務内容や職業倫理、言語聴覚障害の概要について講義する。						
科目担当者	田中美紀・安藤隆一・河野武・中尾佳布（所属 同上）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4	時間数	60

授業の概要 （主題）	さまざまな言語聴覚障害の種類や原因、症状など特徴を学ぶ。 言語聴覚士としての職務や役割について学び、将来言語聴覚障害者へどのように関わっていくのか、専門的な観点から物事を捉えられるようにする。
授業の到達目標	1.言語聴覚療法の歴史について理解する。 2.言語聴覚士の仕事や役割について説明できる。 3.ことばやコミュニケーションのメカニズムについて理解する。 4.言語聴覚障害の種類、原因、症状などを整理し、理解する。 5.コミュニケーション・エイドについて理解する。 6.自分の言語聴覚士としての臨床像をイメージできるようにする。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	オリエンテーション	田中	16	コミュニケーション・エイド②	安藤
2	コミュニケーション障害疑似体験	田中	17	コミュニケーション・エイド③	安藤
3	スピーチチェインについて	河野	18	コミュニケーション・エイド④	安藤
4	発声発語器官について	河野	19	コミュニケーション・エイド⑤	安藤
5	言語聴覚療法について①	田中	20	コミュニケーション・エイド⑥	安藤
6	言語聴覚療法について②	田中	21	嚥下障害①	中尾
7	失語症①	河野	22	嚥下障害②	中尾
8	失語症②	河野	23	発話障害③	河野
9	発話障害①	河野	24	発話障害④	河野
10	発話障害②	河野	25	コミュニケーション・エイド⑦	河野
11	コミュニケーションとは①	河野	26	コミュニケーション・エイド⑧	河野
12	コミュニケーションとは②	河野	27	発話障害⑤	河野
13	WAIS-Ⅲ実習被検者体験	河野	28	吃音	田中
14	WAIS-Ⅲ実習被検者体験	河野	29	コミュニケーション・エイド⑨	安藤
15	コミュニケーション・エイド①	安藤	30	コミュニケーション・エイド⑩	安藤

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	先生により講義のテーマが異なりますので、資料をきちんと整理し、学習に取り組んでください。2年生の専門科目の勉強に繋がるようにノートをまとめていきましょう。
履修条件	欠席をしないこと。言語聴覚士としての臨床をイメージし日々を過ごすこと。

教科書	言語聴覚療法臨床マニュアル、AAC
参考書	適宜紹介していきます。

科目名	言語聴覚障害学特論 1 (リスク管理学)	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	早井 あかね (長崎リハビリテーション学院 専任講師)				
	(実務経験:有) 医療および介護現場での勤務経験をもとに、リハビリテーションを行うにあたって必要なリスク管理について指導する。				
科目担当者	早井 あかね (救命講習時、複数の専任講師にて対応)				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	リスク感性を育み、実習において患者様・自分自身・周囲の人たちの安全を意識し、行動することができる。
授業の到達目標	1. リスク管理で使用される各種用語を覚える 2. 感染症対策・個人情報対策など実習で実践できる知識を覚える。 3. リハビリテーションを実施する際に必要となる医療情報 (カルテ・薬・検査データ・バイタルなど)、各種疾患で起こりやすい合併症の知識を身につける。 4. グループワーク時に積極的に意見を出し、傾聴し、コミュニケーション力をつけることができる。(リスク感性を育む)

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	【総論】リスクとは?リスク管理とは?医療機関を取り巻く現状	早井
第 2 回	【総論】感染症対策・褥瘡対策・個人情報対策	〃
第 3 回	リハビリテーション医療におけるリスク管理・医療情報の集め方 (カルテの見方) リハビリテーションの場面で必要なバイタルチェック・臨床検査データ (血液)	〃
第 4 回	訓練中止の基準確認	〃
第 5 回	K Y T 事例 (グループワーク)	〃
第 6 回	まとめ	〃
第 7 回	救命講習	専任講師
第 8 回	救命講習	〃

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他 () (1 0 0 %) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	まずは自分で考える (あなたがどこに着目したのか) グループで共有 (共有できたポイント・新たに気付くことができたポイントの確認) 全体での発表 (他者に説明できる・伝え方)
履修条件	

教科書	指定教科書なし
参考書	リハビリテーション リスク管理ハンドブック (亀田メディカルセンター) 他、必要時、授業にて紹介します

科目名	失語症 1	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、失語症の原因やメカニズム、症状などについて講義する。				
科目担当者	田中 美紀				
学 科	言語療法学科			学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 （主題）	失語症の原因やメカニズムについて理解する。 基本症状について専門用語を整理し、認知神経心理学的観点から症状の分析を考えられるようにする。随伴する高次機能障害についても理解できることを目標とする。
授業の到達目標	1. 失語症の原因やメカニズムについて理解する。 2. 失語症の基本症状を理解する。 3. 認知神経心理学的観点から症状の分析を行えるようになること。 4. 随伴症状を理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	失語症の定義	田中
第 2 回	流暢性の指標について	田中
第 3 回	失語症の話す症状・メカニズム	田中
第 4 回	話す症状についてグループワーク	田中
第 5 回	失語症の聴く症状・メカニズム	田中
第 6 回	失語症の聴く症状・メカニズム	田中
第 7 回	失語症の読む症状・メカニズム	田中
第 8 回	失語症の読む症状・メカニズム	田中
第 9 回	失語症の書く症状・メカニズム	田中
第 10 回	失語症の書く症状・メカニズム	田中
第 11 回	失語症のタイプ分類について、タイプ別症状	田中
第 12 回	失語症のタイプ分類について、タイプ別症状	田中
第 13 回	失語症のタイプ分類について、タイプ別症状	田中
第 14 回	グループワーク	田中
第 15 回	総括	田中
第 16 回	総括	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他() (90%) (%) (%) (%) (%) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	配布プリントをきちんと整理すること。
履修条件	欠席しないこと。

教科書	《標準言語聴覚障害学》 失語症学 第2版、 標準言語聴覚障害学「失語症学第2版」、なるほど！失語症の評価と治療
参考書	適宜紹介します。

科目名	言語発達障害学 1			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	宮原 亜理沙（長崎リハビリテーション学院 非常勤講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療・福祉施設にて小児の臨床を 10 年間携わった経験をもとに指導する。						
科目担当者	宮原 亜理沙（長崎リハビリテーション学院 非常勤講師）						
学 科	言語療法学学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	小児の正常発達を理解する。
授業の到達目標	1.言語発達障害とは何かを理解する。 2.発達についての用語を学ぶ。 3.新生児の反射、新生児以降に出現する反射・反応を学ぶ。 4.運動・目と手の協応・対人関係・遊びの発達について学ぶ。 5.言語の発達について学ぶ 6.遠城寺式発達検査について学ぶ

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	言語発達障害とは？ 発達の用語について	宮原
第 2 回	新生児の反射・反応について	〃
第 3 回	〃	〃
第 4 回	運動発達について	〃
第 5 回	〃	〃
第 6 回	目と手の協応の発達、身辺自立について	〃
第 7 回	認知発達について	〃
第 8 回	対人関係の発達について	〃
第 9 回	遊びの発達について	〃
第 10 回	運動発達～遊びの発達までのまとめ	〃
第 11 回	言語の発達	〃
第 12 回	言語の発達	〃
第 13 回	遠城寺式発達検査	〃
第 14 回	遠城寺式発達検査	〃
第 15 回	復習、まとめ	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （100％） （ ％） （ ％） （ ％） （ ％） （ ％）
準備学習 学習へのアドバイス	適宜小テストを実施します。 復習をおこない知識を定着させるようにしてください。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	言語発達障害学 第 3 版、遠城寺式 乳幼児分析的発達検査法
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	小児聴覚障害 1			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	安藤 隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療現場で得た経験を基に、言語聴覚士の視点からとらえた聴覚障害の指導にあたる。						
科目担当者	安藤 隆一						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	小児の聴覚分野について理解する。
授業の到達目標	・小児の聴覚障害の概要について理解し、適切な聴力検査と補聴機器の選択ができるとともに、難聴児への日常の声掛けにおける留意点を具体的に説明できる。 ・聴者(耳栓有)に対し簡易聴力検査を実施し、オーディオグラムを作成することができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	概要	安藤
第 2 回	概要	安藤
第 3 回	発生	安藤
第 4 回	聴覚発達	安藤
第 5 回	聴覚障害	安藤
第 6 回	聴力検査	安藤
第 7 回	純音聴力検査（演習）	安藤
第 8 回	純音聴力検査（演習）	安藤
第 9 回	難聴疑似体験	安藤
第 10 回	聴覚補償	安藤
第 11 回	純音聴力検査（実習）	安藤
第 12 回	純音聴力検査（実習）	安藤
第 13 回	ハビリテーション	安藤
第 14 回	ハビリテーション	安藤
第 15 回	ふりかえり	安藤
第 16 回	ふりかえり	

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他() (80%) (%) (10%) (%) (10%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修条件	

教科書	聴覚検査の実際（日本聴覚医学会）、聴覚障害学（医学書院）
参考書	

科目名	臨床実習 1（見学実習）			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、実習前後において実習生の心得や言語聴覚療法に関する知識・技術を指導する。実習中は実習指導者とも連携を取り、学生のフォローを行う。						
科目担当者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）						
学 科	言語療法学科					学 年	1
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	1	時間数	40

授業の概要 （目標）	・ 言語聴覚障害がある人の抱える問題とその背景について学ぶ。 ・ 言語聴覚士の役割と業務について学ぶ。 ・ 見学する施設の特徴と地域における役割について学ぶ。 ・ 職業倫理（守秘義務など）について学ぶ。
---------------	--

授業計画		
実習期間	内 容	担当
11 月 17 日～ 11 月 21 日(予定) (5 日間)	実習指導者の指導・監督の下で、実際の対象者に対して言語聴覚療法が行われている場面を見学する。 言語聴覚療法の一連の流れを理解する。 実際に患者様と接し、レポートが取れるようになる。 医療人としてのマナーを身につける。	言語療法学専攻教員全員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には、実習の指導者による学生の学修成果の評価を踏まえ、学院が成績評価・単位認定を行う。
--------------------	--

準備学習 学習へのアドバイス	実習病院（施設）への事前連絡で、対象とされている言語聴覚障害の種類について確認し、事前学習をしておくこと。疑問点は積極的に専任講師に質問し、学習を深めていくこと。
履修条件	

教科書	臨床実習で必要とするすべての専門書
参考書	

令和 7 年度 (2025 年度)

シラバス (授業計画)

言語療法学科 2 年次

科目名	文献研究法			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	中尾 佳布（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士。病院にて勤務。精神科、脳外科、回復期リハビリテーション病棟など幅広く経験。その臨床経験中、患者理解に必要な最新の知見を得るために文献購読を行ってきた経験を活かして講義を行う。						
科目担当者	中尾 佳布						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	文献の読み方について理解し、様々な考察の根拠として用いることができるようにする。 そのための手段や方法を学び、実際に文献抄読を実施する。
授業の到達目標	1. 文献の読み方、読む意味を理解する。 2. 文献に書かれている項目立てを理解し、客観的な捉え方ができるようにする。 3. 実際に文献を探し、その内容について文献抄読会を開催する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	文献を読む意味を捉える	中尾
第 2 回	文献の項目を捉えよう	中尾
第 3 回	文献の検索方法	中尾
第 4 回	データベースの考え方	中尾
第 5 回	文献を探そう 興味を持とう	中尾
第 6 回	文献を探そう 実際にデータベースを使ってみよう	中尾
第 7 回	文献のまとめ	中尾
第 8 回	文献のまとめ	中尾
第 9 回	Powerpoint 作成	中尾
第 10 回	Powerpoint 作成	中尾
第 11 回	発表準備	中尾
第 12 回	発表準備	中尾
第 13 回	発表準備	中尾
第 14 回	文献抄読会	中尾
第 15 回	文献抄読会	中尾

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() () (100%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	ノート PC を持参のこと
履修条件	

教科書	
参考書	医療・看護系のための情報リテラシー（office2019 対応分） 東京図書 情報活用力 noa 出版

科目名	カウンセリング論			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関でのカウンセリングに従事した経験をもとに、対人援助場面において必要なカウンセリングの理論や技法について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	カウンセリングに関する基本的な理論や技法について学ぶとともに、リハビリテーションにおけるカウンセリングの有用性を理解し、リハ専門職として援助場面におけるカウンセリングの活用について考える機会とする。
授業の到達目標	1. カウンセリングの基本理論や技法について説明できる 2. リハビリテーション場面でのカウンセリングの有用性について理解する 3. カウンセリングの理論や技法について援助場面で応用できる力を養う

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	カウンセリング概説	城下
第2回	カウンセリングマインド（態度、観察事項など）	城下
第3回	カウンセリングの理論	城下
第4回	カウンセリングの技法① 話の聴き方	城下
第5回	カウンセリングの技法② 受容、共感	城下
第6回	カウンセリングの技法③ 質問	城下
第7回	カウンセリングの技法④ 解決志向アプローチ	城下
第8回	カウンセリングの技法⑤ 承認、動機づけ・まとめ	城下

成績評価の方法	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他 （演習等への取り組み）
（評価の基準）	（ 90 %） （ %） （ %） （ %） （ %） （ 10 %）
準備学習 学習へのアドバイス	座学だけではなく可能な範囲で演習なども取り入れながら、体験的な学びの機会となるようにしていきたいと思っています。積極的な取り組みを望みます。
履修条件	

教科書	特になし、授業内でプリントを配布
参考書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院）

科目名	英語 2	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	講師調整中				
	(実務経験：有)				
科目担当者					
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	30

授業の概要 (主題)	The focus is on vocal production and pronunciation, using English as a tool to teach the mechanisms of pronunciation.
授業の到達目標	Every Japanese has speech problems in English, so the students learn to identify with their future patients as they learn tongue twisters and speech therapy techniques.

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	Explanation of vowel and consonant issues, with diagnostic quizzes	
第 2 回	Voicing, /s/ and /z/, sentence rhythm, introduction to /əɪ/	
第 3 回	/z/ and /dz/, /ts/, /səɪ/ and /zəɪ/, introduction to initial /r/ and /l/	
第 4 回	Final /n/, glottal /ŋ/, /θ/ and /ð/, continuation of /r/ and /l/	
第 5 回	/f/, vowel contrasts	
第 6 回	/l/ after vowels, /əɪl/, /y/, /h/ and /f/, /v/ and /b/	
第 7 回	/s/ and /ʃ/, /ʒ/, /č/, /j/	
第 8 回	Vowel contrasts, /s/ and /θ/	
第 9 回	Vowels with /r/ and /l/	
第 10 回	/w/ and /r/, /r/ /l/ pairs	
第 11 回	/s/ and /ʃ/ review, indefinite articles	
第 12 回	Cardinal and ordinal numbers, consonant clusters	
第 13 回	S-shift transformations,	
第 14 回	Assorted reviews	
第 15 回	Tongue twister review	

成績評価の方法 (評価の基準)	☐ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (%) (50%) (%) (50%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	Students are paired with partners, and are to act as therapists for each other. Their grade depends on their own performance and their partner's performance.
履修条件	Extensive hearing and pronunciation practice, with explanation of speech mechanisms, using mirrors and classic speech therapy techniques.

教科書	<i>Pronunciation Manual</i> , from Seido Language Institute
参考書	Song sheets and a tongue twister sheet prepared by the instructor.

科目名	保健体育 2	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	池田 広樹（所属 向陽学園 向陽高校）				
	（実務経験：有） 大阪府警勤務における経験をもとに、規律を徹底した指導を行う。				
科目担当者	池田 広樹				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	池田
第 2 回	選択競技	池田
第 3 回	選択競技	池田
第 4 回	選択競技	池田
第 5 回	選択競技	池田
第 6 回	選択競技	池田
第 7 回	選択競技	池田
第 8 回	選択競技	池田

【変更後】

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(出席・態度) (%) (%) (%) (%) (%) (100 %)
準備学習 学習へのアドバイス	出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	ホスピタリティー論 2			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属 合同会社ヒューマンナガサキ）						
	（実務経験：有）多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる						
科目担当者	田中 美吉子						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	・仲間とのコミュニケーション・職場におけるビジネスマナーについて ・自分とのコミュニケーション（感情コントロール）について ・生活や人生の節目に活かすマナー（冠婚葬祭、お見舞いのマナーなど）
授業の到達目標	状況に応じたコミュニケーション力を養う。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	職場のルールとビジネスマナー、報告・連絡・相談、指示命令の受け方	田中
第 2 回	病棟、訪室、エレベーター乗降りのマナー、席次（上座&下座）	田中
第 3 回	ご高齢者とのコミュニケーション、上手な断り方、プライバシーへの配慮	田中
第 4 回	4つのソーシャルスタイル別コミュニケーション	田中
第 5 回	実習の振り返りと医療現場におけるホスピタリティーについて	田中
第 6 回	アンガーマネジメント（医療・介護の現場に求められる感情コントロール法）	田中
第 7 回	クレーム&苦情対応、事例検討	田中
第 8 回	職場の冠婚葬祭、お見舞いのマナー、 総合試験	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 演習 ☒ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(学習態度) （ 40% ） （ % ） （ 30% ） （ ） （ % ） （30%）
準備学習 学習へのアドバイス	授業への取組姿勢、態度、聴き方、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。日常生活でも常に意識しましょう。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	

科目名	生理学実習			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	介田 圭（所属 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教）						
	（実務経験：有） 歯科医師として勤務。口腔リハビリテーションにも携わるなどの臨床現場の経験をもとに、講義を行う。						
科目担当者	介田 圭						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職として必要な生きた組織や器官を扱う機会が非常に少ないので、生理学実習を体験することで、教科書を読むことによって得た知識を実験で実際体験することにより、生きた知識として身につける。
授業の到達目標	1. 感覚点の分布やその温度依存性など特性を理解できる 2. ウェーバー・フェヒナーの法則とステューブンスの法則を通してわれわれの感覚の生理学的性質を理解できる 3. 感覚器のメカニズムを理解できる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	皮膚感覚（触圧点・痛点）	介田
第 2 回	同	介田
第 3 回	皮膚感覚（冷点・温点）	介田
第 4 回	同	介田
第 5 回	皮膚感覚（2点識別閾）	介田
第 6 回	同	介田
第 7 回	歯の植立部位の弁別	介田
第 8 回	同	介田
第 9 回	視覚生理学	介田
第 10 回	同	介田
第 11 回	重量感覚	介田
第 12 回	同	介田
第 13 回	温度感覚	介田
第 14 回	同	介田
第 15 回	舌における味覚の分布	介田
第 16 回	同	介田

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他() (50%) (%) (%) (%) (50%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	質の高いレポートにしていきたいので、しっかり学習してください
履修条件	真摯な受講態度を望む

教科書	
参考書	解剖生理学 実験テキスト・生理学編 おうふう 2009

科目名	小児科学	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	講師調整中（長崎医療センター 小児科） （実務経験：有）				
科目担当者					
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	小児科の総論・よくある疾患等の基本的な知識を身につける。
授業の到達目標	小児の成長・発達を理解する。 小児のよくある疾患を理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	小児の成長・発達・栄養	
第 2 回	小児の診断・治療総論	
第 3 回	新生児疾患、小児の急性疾患	
第 4 回	小児の急性疾患・事故	
第 5 回	小児でよく見る症状	
第 6 回	健診異常・慢性疾患	
第 7 回	障害を持つ子ども	
第 8 回	復習	
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	ポイントは適宜授業中に伝えますので、メモを取って下さい。
履修条件	授業に出席すること

教科書	なし
参考書	なし

科目名	形成外科学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	水野 明夫（長崎大学 名誉教授）						
	（実務経験：有）長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯学系口腔顎顔面外科学分野元教授、歯学部(併：口腔外科学 I 担当)、同大学病院歯科系診療部門 顎・口腔外科元科長(併)・口腔顎顔面外科室元室長(旧 第一口腔外科元科長 併任)として、当該分担全領域の教育・診療・研究に従事してきた。その経験をもとに形成外科学の指導にあたる。						
科目担当者	水野 明夫						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	「言語聴覚士を目指す学生への形成外科学」の基本概念を学び、その診療対象疾患等と治療についての疾病論的基礎知識を学習する。ことに種々の先天的・後天的疾患との関わりについて学ぶ。
授業の到達目標	1. 形成外科学の目的・診療対象・基本的治療の概要を理解できる 2. 創傷治癒の原理・病理学的基礎・治療の概要を理解できる 3. 組織移植<遊離皮膚・皮弁・筋皮弁、骨>の概念を理解できる 4. 唇顎口蓋裂<口唇(または唇)裂、顎裂、口蓋裂>および類縁疾患の基本的知識を理解できる 5. 顎顔面外傷の概要を理解できる 6. 顔面神経麻痺の概要を理解できる 7. 各種骨切術応用の概要を理解できる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	形成外科学総論（目的・診療対象・基本的治療）	水野
第 2 回	創傷治癒・創傷治癒の異常（瘢痕・ケロイド、瘢痕拘縮、難治性潰瘍）、熱傷	水野
第 3 回	組織移植<遊離皮膚・皮弁・筋皮弁、骨> その 1	水野
第 4 回	組織移植<遊離皮膚・皮弁・筋皮弁、骨> その 2	水野
第 5 回	顎顔面外傷	水野
第 6 回	顔面神経麻痺	水野
第 7 回	唇顎口蓋裂<口唇(または唇)裂、顎裂、口蓋裂>および類縁疾患	水野
第 8 回	顎顔面での各種骨切術応用、総括	水野

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100 %) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	専門用語が多数あるので、講義後には必ず復習すること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	言語聴覚士テキスト II 臨床医学 7 形成外科学
参考書	必要時、授業にて紹介する

科目名	神経系の解剖生理	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	安藤 隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療現場で得た経験を基に、言語聴覚士の視点からとらえた神経系の解剖生理学と言語病理学との因果関係についての指導にあたる。				
科目担当者	安藤 隆一				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	1 年次解剖学 B の内容を復習すると共に更なる専門科目の理解の土台を作る。
授業の到達目標	1. 解剖学 B の知識をもう一度復習することができる。 2. 解剖生理だけでなく、障害像を捕らえ、そこから出現する言語病理を推測できる。 3. 各専門科目との横の繋がりを取れるようにする。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	神経系の基本用語、神経細胞ニューロンについての解剖の復習	安藤
第 2 回	体性神経と自律神経の復習 脊髄の解剖の復習	安藤
第 3 回	大脳半球の解剖の復習	安藤
第 4 回	大脳半球の障害	安藤
第 5 回	大脳半球の機能局在の復習並びに障害像 痙性麻痺を捉える	安藤
第 6 回	大脳髄質の線維の仕組み 錐体路・錐体外路の復習	安藤
第 7 回	大脳基底核の復習	安藤
第 8 回	大脳基底核の障害像、錐体外路障害を捉える	安藤
第 9 回	間脳の解剖生理 視床・視床下部の復習 自律神経障害を捉える	安藤
第 10 回	脳幹の復習 閉じこめ症候群、パーキンソン病、交叉性片麻痺を捉える	安藤
第 11 回	小脳の解剖生理の復習 失調症の特徴を捉える。	安藤
第 12 回	脳脊髄液の循環の復習 水頭症のタイプ、治療を抑える	安藤
第 13 回	脳血流の復習 脳血管障害のタイプ、障害部位から予測される障害像を捕らえる	安藤
第 14 回	12 脳神経の復習	安藤
第 15 回	プレテスト/質疑応答	安藤

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他() (90%) (%) (%) (%) (%) (10%)
準備学習 学習へのアドバイス	1 年次解剖学 B の講義ファイルを毎回持参すること。事前に見直しをしてくること。
履修条件	

教科書	脳の地図帳
参考書	

科目名	臨床心理学			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえ、対人援助場面において必要な臨床心理学の知識について講義を行う。						
科目担当者	城下 未来						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	臨床心理学の概要について学習し、患者の心理的問題の理解や援助の基礎となる知識を習得する。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎知識を理解できる。 2. 援助を必要とする対象者の心理的問題について理解し、その理解の方法について説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	臨床心理学概説	城下
第 2 回	パーソナリティ（人格理論）	城下
第 3 回	異常心理・ストレス、防衛機制	城下
第 4 回	発達	城下
第 5 回	心理アセスメント①	城下
第 6 回	心理アセスメント②	城下
第 7 回	心理療法①	城下
第 8 回	心理療法② ・ まとめ	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（演習・出席） （ 80%） （ %） （ %） （ 20%） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	可能な範囲で確認テストや演習なども取り入れながら行います。積極的な参加を望みます。
履修条件	

教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院） その他、毎回授業の際に資料を配布予定。
参考書	必要時に適宜紹介する。

科目名	臨床心理検査法			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえ、各種検査の内容・評価法について講義する。						
科目担当者	城下未来・安藤隆一・河野武・田中美紀・中尾佳布（所属 同上）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実習	単位数	2	時間数	45

授業の概要 （主題）	言語聴覚療法に関わる各種検査法の目的、手技、評価法について学ぶ。 検査者としての技術、倫理観について学ぶ。
授業の到達目標	1.各種検査の目的を理解する。 2.検査法を熟練する。 3.被検者の心理状況について配慮し、検査が行えるようになる。 4.検査の結果の解釈を適切に行えるようにする。 5.関連する文献などを参考にし、評価レポートが書けるようになる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	検査とはなにか	城下	16	WAIS-Ⅲ実習②	城下
2	知能検査について	城下	17	WAIS-Ⅲ、WAIS-Ⅳ	城下
3	レポートの書き方について	田中	18	WAIS-Ⅲ、WAIS-Ⅳ	城下
4	レポートの書き方について	田中	19	コース立方体テスト、 トークンテスト、RCMT	河野
5	WAIS-Ⅲ講義	城下			
6	WAIS-Ⅲ講義	城下	20	コース立方体テスト トークンテスト、RCMT	河野
7	WAIS-Ⅲ講義	城下			
8	WAIS-Ⅲ講義	城下	21	コース立方体テスト、 トークンテスト、RCMT	河野
9	認知症について	中尾			
10	認知症について	中尾	22	コース立方体テスト、 トークンテスト、RCMT	河野
11	HDS-R、MMSE	中尾			
12	FAB、MOCAJ	中尾	23	WISC-Ⅳ、小児の知能検査①	城下
13	WMS-R①	安藤	24	WISC-Ⅳ、小児の知能検査②	城下
14	WMS-R②	安藤	25		
15	WAIS-Ⅲ実習①	城下	26		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他（ ） （70%） （ %） （10%） （ %） （20%） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	検査実習ではマニュアルを作成すること。実習場所は事前に担当教員に確認すること。 実習では上下ケーシー、白靴着用のこと。
履修条件	実習では開始 10 分前には道具を準備し着席しておくこと。 レポートの提出期限は必ず守ること。

教科書	各担当教員により資料が配付されます。きちんと整理しておいてください。
参考書	ST テキスト、言語聴覚療法臨床マニュアル、ST 評価ポケット手帳 各種検査マニュアル（教務室にて手続き後、貸し出し可能です）

科目名	心理測定法			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	橋口 晋（所属 臨床心理士・公認心理師）						
	（実務経験：有）日本心理学会、日本発達心理学会等所属学会多数。長崎県スクールカウンセラー、長崎労働局メンタルヘルス巡回研修講師兼相談員など多数のカウンセリング業務を兼任。現場での経験をもとに心理測定法の指導にあたる。						
科目担当者	橋口 晋						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

授業の概要 （主題）	心理測定の基礎的な方法や結果をゆがめる要因について受講生の理解を深める
授業の到達目標	言語聴覚士国家試験に頻出する用語の説明について、その真偽を答えられる。 ランダム化比較対照実験・少数事例実験法を用いた、大まかな実験計画を案出できる。 質問紙法や精神物理学的な刺激提示方法の特徴を説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	カフェイン実験 実験群と統制群の比較 操作的定義	橋口
第 2 回	カフェイン実験 偽薬効果	〃
第 3 回	両側性転移	〃
第 4 回	両側性転移 経験破壊法 順序効果	〃
第 5 回	ミューラー・リヤー錯視	〃
第 6 回	ミューラー・リヤー錯視（被験者）調整法	〃
第 7 回	大きさの恒常法	〃
第 8 回	大きさの恒常法 極限法（完全上下法）	〃
第 9 回	心的回転	〃
第 10 回	心的回転 恒常法 相関	〃
第 11 回	語の記銘（系列位置効果）	〃
第 12 回	語の記銘（系列位置効果） 無意味つづり	〃
第 13 回	質問紙法 標本調査 信頼性 妥当性	〃
第 14 回	質問紙法 信頼性 妥当性 一対比較法 多次元尺度構成法	〃
第 15 回	少数事例実験法	〃
第 16 回	まとめ	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	事前情報により測定結果に歪みが生じる恐れがあるため、予習は求めません。 その代わり、復習をお願いします。
履修条件	

教科書	木下富雄 教材心理学 ナカニシヤ出版
参考書	

科目名	音声学 2			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	笹栗 淳子（所属 長崎純心大学 人文学部 英語情報学科 教授）						
	（実務経験：有）専門分野は日本語教育/言語学。所属学会は日本言語学会、日本語学会、日本語教育学会など。大学での研究実績や留学生への日本語指導の経験をもとに音声学の指導にあたる。						
科目担当者	笹栗 淳子						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	母語である日本語の音声的・音韻的・韻律的特徴を観察および記述する。さらに、日本語にはない音声や音韻について観察することにより、音韻体系についての理解を深める。
授業の到達目標	1. 日本語を IPA で書くことができる 2. 音素と音声の違いを理解できる 3. 日本語の音韻的特徴を理解する （アクセント・プロミネンス・ポーズ・イントネーション） 4. 日本語以外の言語について観察してみる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション・音声学 1 の復習	笹栗
第 2 回	IPA の復習	笹栗
第 3 回	音声的音韻的現象	笹栗
第 4 回	特殊拍・音素	笹栗
第 5 回	音節	笹栗
第 6 回	アクセントの種類	笹栗
第 7 回	アクセントの機能	笹栗
第 8 回	イントネーション・プロミネンス・ポーズ	笹栗
第 9 回	体言と用言・用言のアクセント	笹栗
第 10 回	方言アクセントの種類	笹栗
第 11 回	他言語の特徴 1	笹栗
第 12 回	他言語の特徴 2	笹栗
第 13 回	音韻論（他言語と日本語を対照する）	笹栗
第 14 回	アクセントの復習	笹栗
第 15 回	総復習	笹栗

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ 100% ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	授業の初めに毎回復習を行う。事前にノートとテキストを読み返す時間をとること。
履修条件	

教科書	日本語教育よくわかる音声, アルク, 2018
参考書	授業中に紹介する

科目名	言語発達学	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	當麻 利香子（ふぁみりーステーション・クレール 公認心理師） （実務経験：有）公認心理師として、児童発達支援及び放課後等デイサービスにて、幼児期及び児童期の発達支援に携わり、その経験をもとに指導する。				
科目担当者	當麻 利香子（同上） 井村 弘子（長崎県医療的ケア児支援センター 言語聴覚士）（実務経験：有）				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	言語聴覚士として必要な言語発達学の基礎知識を学ぶとともに、コミュニケーションに障がいをもつ方々への支援を実践できる学習力と探求心を身につける。
授業の到達目標	① 言語発達を説明する基本的な各理論について理解する。 ② 乳幼児期から学童期までの言語発達の過程を理解する。 ③ 言語発達障害の評価、指導について理解する ④ 地域における言語聴覚士の役割について理解する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	「言語」のとらえ方と言語発達理論 ①学習説 ②生得説	當麻
第 2 回	1.「言語」のとらえ方と言語発達理論 ③認知説 ④社会相互作用説 2.発達支援の観点からの言語発達	〃
第 3 回	前言語期の発達 ①コミュニケーション行動の発達 ②認知機能の発達	〃
第 4 回	1～2 歳の言語発達 ①初語の出現・語いの増加 ②構文の発達	〃
第 5 回	1～2 歳の言語発達 ③象徴機能の発達 ④言語発達を促す大人のかかわり	〃
第 6 回	幼児期の言語発達 ①幼児期の認知発達 ②幼児期の発話例	〃
第 7 回	幼児期の言語発達 ③語い・構文・談話の発達	〃
第 8 回	学童期の言語発達 ①学習言語の習得 ②メタ言語能力の発達	〃
第 9 回	学童期の言語発達 ③リテラシーの発達 ④意味的側面の発達	〃
第 10 回	学童期の言語発達 ⑤語用的側面の発達 ⑥C L D 児と言語聴覚士	〃
第 11 回	・読み書きの発達 ・限局性学習症について	井村
第 12 回	・言語発達障害とは ・言語発達障害の評価・診断（S-S 法等）	〃
第 13 回	・言語発達障害の臨床（言語発達段階に即した指導）	〃
第 14 回	・言語発達障害の臨床（自閉症スペクトラム、ADHD）	〃
第 15 回	・言語発達障害の臨床（知的障害、特異的言語発達障害）	〃
第 16 回	・グループワーク(保護者との面接等) ・学習のまとめ	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100 %) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	「音声学・言語学」今泉敏編集 医学書院
参考書	講義時に紹介する

科目名	リハビリテーション概論 2			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	橋口将大（長崎リハビリテーション学院 専任講師）						
	（実務経験：有） 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。						
科目担当者	橋口将大、桑原由喜（長崎リハビリテーション学院 専任講師）、安藤隆一（長崎リハビリテーション学院 専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	リハビリテーションの概念・理念・定義を理解したうえで、日本における医学的リハビリテーションの展開を各々の視点から学ぶ。他職種の専門性の理解、チーム医療、他職種協業について体験し、学習する。
授業の到達目標	1. リハビリテーションにおける療法士の位置づけや役割を理解できる 2. チームアプローチ、他職種協業について説明できる 3. 障害像を把握した上で、必要な評価を選択し、情報を得ることができる 4. 症例の問題点を抽出し、発表できる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション、症例紹介	安藤・桑原・橋口
第 2 回	症例の情報収集	安藤・桑原・橋口
第 3 回	症例の障害像把握と必要な評価の選択	安藤・桑原・橋口
第 4 回	統合と解釈	安藤・桑原・橋口
第 5 回	問題点抽出	安藤・桑原・橋口
第 6 回	リハゴール設定	安藤・桑原・橋口
第 7 回	症例検討会（発表）	安藤・桑原・橋口 福田・田中・城下
第 8 回	同上	安藤・桑原・橋口 福田・田中・城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他(発表) (%) (%) (%) (%) (50 %) (50 %)
準備学習 学習へのアドバイス	1～6回はグループワークで進めます。将来、チーム医療の一員として働くことを考え、積極的な態度と責任ある行動を望みます。テキストやインターネット等を活用し、各職種の情報収集～治療までの基本的な流れを復習しておくこと。
履修条件	これから専門職を目指すものとしての心構えをしっかりとった受講態度を求めます。また、社会人、医療人を目指すものとして、相応しい取り組みを求めます。

教科書	必要なものを持参
参考書	

科目名	関係法規			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	中尾 佳布（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、臨床で必要となる医療や福祉に関する制度について講義する。						
科目担当者	中尾佳布、城下未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	わが国の医療福祉に関わる制度を理解し、将来、医療福祉分野の専門職として必要な基礎知識を学ぶ。
授業の到達目標	1. 社会保障制度の内容を理解し、医療福祉分野の専門職として制度が抱えている問題の所在を理解することができる。 2. 言語聴覚士法を理解し、専門職としての倫理観を身につける。 3. 医療福祉に関する制度を知識として身につけることで、将来、患者様へ様々なサービスを提供できるようにする。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	医療従事者に関する法規、言語聴覚士法について	中尾
第 2 回	医療保険関係法規（わが国の社会保険制度について）	中尾
第 3 回	医療法について	中尾
第 4 回	老人の福祉と保健（主に介護保険法について）	中尾
第 5 回	低所得者の福祉（生活保護法について）	城下
第 6 回	母子・児童の福祉と保健（母子保健法、児童福祉法など）	城下
第 7 回	知的障害または精神障害の福祉と保健	城下
第 8 回	障害者の福祉と保健（身体障害者福祉法、障害者総合支援法など）	城下

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他（ ） （ 90% ） （ % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ 10% ）
準備学習 学習へのアドバイス	主にプリントを配布して講義を行います。プリントに出てくる法規について、教科書で確認すると理解しやすくなると思います。
履修条件	欠席しないこと。

教科書	公衆衛生がみえる
参考書	適宜紹介します。

科目名	言語聴覚障害診断学			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、言語聴覚療法における評価・診断について実践を交えて講義する。						
科目担当者	田中美紀・河野武・中尾佳布（所属 同上） 中道隆広（長崎総合科学大学 総合情報学部総合情報学科 准教授）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業の概要 （主題）	言語聴覚障害の診断のプロセスを学ぶ。 リハビリテーション専門職として必要な統計手法を学習する。
授業の到達目標	臨床体験実習を想定し、スクリーニングや検査実習を行い、評価や問題点を報告書にまとめる。 統計手法に必要なデータのまとめ方を理解する。 関連する文献を読み、考察を行う。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	3年生症例報告聴講	田中	16	スクリーニング修正	田中
2	3年生症例報告聴講	河野	17	急性期・回復期・生活期・小児期の ST の役割について	田中 他
3	初回面接・スクリーニングについて	河野	18	〃	田中
4	〃	田中	19	〃	田中
5	〃	田中	20	〃	田中
6	スクリーニング作成について（失語）	田中	21	実習自己評価作成・発表	田中
7	〃	田中	22	〃	田中
8	スクリーニング作成（dys、嚥下）	中尾	23	応用統計学	中道
9	〃	中尾	24	〃	中道
10	スクリーニング実技準備	河野	25	〃	中道
11	〃	田中	26	〃	中道
12	スクリーニング実技	河野	27	〃	中道
13	スクリーニング振り返り	河野	28	〃	中道
14	評価・アセスメント作成	田中	29	〃	中道
15	スクリーニング・アセスメント発表	田中	30	〃	中道

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他（ 発表 ） （ 50% ） （ 30% ） （ % ） （ % ） （ 10% ） （ 10% ）
準備学習 学習へのアドバイス	常に臨床を想定して取り組むこと。提出物の〆切をきちんと守ること。 グループワークでは班員と協調性を保ち、積極的に行動すること。
履修条件	

教科書	言語聴覚士のための臨床実習テキスト（成人編・小児編）
参考書	言語聴覚療法 臨床マニュアル など

科目名	失語症 2	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、失語症の検査や評価法について講義する。				
科目担当者	田中 美紀				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	60

授業の概要 （主題）	失語症の診断、評価法について理論や技能の修得を行う。 失語症者の全体像を把握し、タイプ分類、重症度の判定を行い問題点の抽出ができるようになる。鑑別診断についても理解する。
授業の到達目標	1.インテーク面接における技能を修得する。 2.スクリーニング検査により失語症の有無が分かるようになる。 3.SLTA を適切に行い、評価ができるようになる。 4.失語症のタイプ分類、重症度、症状の分析など、文献的考察から評価レポートが書けるようになる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	失語症の基礎について復習テスト	田中	16	結果のまとめ方について	田中
2	失語症の評価・診断過程	田中	17	結果のまとめ方について	田中
3	インテーク面接、スクリーニング検査	田中	18	評価のまとめ方について	田中
4	インテーク面接、スクリーニング検査	田中	19	評価のまとめ方について	田中
5	SLTA の概要	田中	20	評価のまとめ方について	田中
6	SLTA 手順について（聴く）	田中	21	評価のまとめ方について	田中
7	SLTA 手順について（聴く）	田中	22	評価のまとめ方について	田中
8	SLTA 手順について（話す）	田中	23	評価のまとめ方について	田中
9	SLTA 手順について（話す）	田中	24	SLTA 実習	田中
10	SLTA 手順について（話す）	田中	25	SLTA 実習	田中
11	SLTA 手順について（読む）	田中	26	SLTA 実習	田中
12	SLTA 手順について（書く）	田中	27	問題点の抽出について	田中
13	SLTA 手順について（書く・計算）	田中	28	目標設定について	田中
14	結果のまとめ方について	田中	29	総括	田中
15	結果のまとめ方について	田中	30	総括	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	1 年次の失語症の症状や、そのメカニズムについて復習しておくこと。 SLTA のマニュアルを作成し評価法を修得すること。
履修条件	欠席しないこと。

教科書	標準失語症検査マニュアル、 標準言語聴覚障害学「失語症学第 2 版」、なるほど！失語症の評価と治療
参考書	適宜紹介します。

科目名	高次脳機能障害 1	開講年度	2025	期	前
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）言語聴覚士として病院に勤務。急性期～生活期まで幅広く経験。その経験をもとに、高次脳機能障害の指導にあたる。				
科目担当者	河野 武、遠藤 生子（元長崎リハビリテーション学院 専任講師）（実務経験：有）				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	言語聴覚士として臨床現場で多く散見する高次脳機能障害（失認、視空間障害、失行、記憶障害、前頭葉症状など）の多様な症状について、基礎知識、評価、診断、リハビリテーションについて学習する。
授業の到達目標	1. 高次脳機能障害の原因と症状を理解できる。 2. 高次脳機能障害の評価と診断について理解できる。 3. 高次脳機能障害のリハビリテーションについて理解できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	高次脳機能障害の基本概念、背景症状、高次脳機能障害のリハビリテーション	河野
第 2 回	脳と高次脳（神経学的な考え方、高次脳機能と画像診断）	河野
第 3 回	失認について（種類、症状、評価、リハビリテーション）	河野
第 4 回	失認について（種類、症状、評価、リハビリテーション）	河野
第 5 回	失行について（種類、症状、評価、リハビリテーション）	河野
第 6 回	脳外傷による高次脳機能障害について	河野
第 7 回	視空間障害①（半側空間無視、地誌的見当識障害、Balint 症候群、その他）	遠藤
第 8 回	視空間障害②（半側空間無視、地誌的見当識障害、Balint 症候群、その他）	遠藤
第 9 回	視空間障害③（視覚性運動失調と視覚消去現象、構成障害）、BIT の紹介	遠藤
第 10 回	視空間障害④（視覚性運動失調と視覚消去現象、構成障害）、BIT の紹介	遠藤
第 11 回	前頭葉と高次脳高次脳機能障害①（原因、症状、評価、診断、リハビリテーション）	遠藤
第 12 回	前頭葉と高次脳高次脳機能障害②（原因、症状、評価、診断、リハビリテーション）	遠藤
第 13 回	前頭葉と高次脳高次脳機能障害③（原因、症状、評価、診断、リハビリテーション）	遠藤
第 14 回	前頭葉と高次脳高次脳機能障害④（原因、症状、評価、診断、リハビリテーション）	遠藤
第 15 回	標準高次動作性検査 講義・演習	河野
第 16 回	標準高次動作性検査 講義・演習	河野
第 17 回	記憶障害について（分類、症状、種類、評価、リハビリテーション）	河野
第 18 回	記憶障害について（分類、症状、種類、評価、リハビリテーション）	河野
第 19 回	ベントン視覚記銘検査、三宅式記銘力検査、Rey の複雑図形検査 講義・実習	河野
第 20 回	ベントン視覚記銘検査、三宅式記銘力検査、Rey の複雑図形検査 講義・実習	河野

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （100%） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	臨床現場に必要な専門用語があるので講義後は必ず復習する。 実習に向け、ケーススタディなど関連する資料について情報を収集しておく。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	高次脳機能障害学 第 3 版：医学書院
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	言語発達遅滞 2			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	宮原 亜理沙（長崎リハビリテーション学院 非常勤講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療・福祉施設にて小児の臨床に 10 年間携わった経験をもとに指導する。						
科目担当者	宮原 亜理沙（長崎リハビリテーション学院 非常勤講師） 吉田紀子・奥野佐紀（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家 言語聴覚士）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業の概要 （主題）	・言語発達障害をおこす疾患についての知識を獲得する。 ・言語発達障害の特に評価についての知識を獲得する。
授業の到達目標	1. 正常発達を理解する。 2. 言語発達障害をおこす疾患について特徴をおさえる。 3. 言語発達障害の評価、検査の内容について学び、演習を通して実施法を身につける。 4. 障害別・言語発達段階ごとの訓練について学ぶ。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	概要、ICD-10,DSM-5-TR	宮原	16	〃	〃
2	〃	〃	17	検査・評価について	奥野
3	知的発達症	〃	18	〃	奥野
4	〃	〃	19	〃	奥野
5	特異的言語発達障害	〃	20	〃	奥野
6	〃	〃	21	〃	吉田
7	学習障害	〃	22	〃	吉田
8	〃	〃	23	〃	吉田
9	自閉スペクトラム症	〃	24	〃	吉田
10	〃	〃	25	〃	奥野
11	注意欠如多動症	〃	26	〃	奥野
12	〃	〃	27	〃	奥野
13	脳性麻痺	〃	28	〃	奥野
14	〃	〃	29	〃	吉田
15	障害別特徴まとめ	〃	30	〃	吉田

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	予習・復習のためにテキストは各自で読み進めてください。 ※実習・臨床のためには、検査実技は講義内の時間だけでは足りないため、各自で練習を行うこと。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	言語発達障害学 第3版
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	脳性麻痺	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	大山智恵美（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家 理学療法士） 大山智恵美（実務経験*：有） 小児関連施設で理学療法士として勤務。令和5年3月言語聴覚士国家資格取得。脳性麻痺児（者）に関わるセラピストに必要な正常発達やチームアプローチの重要性について気付きを促す。 吉田紀子（実務経験*：有） 重症心身障害児者へのコミュニケーションや摂食・嚥下の支援、発達に遅れがあるこどもへの評価・指導や保育園等への支援、特別支援学校への支援などを行っている。重度の障害をもつこどもや大人の主体性や選択性、摂食・嚥下について考える視点を指導する。				
科目担当者	大山智恵美 ・ 吉田紀子（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家 言語聴覚士）				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	脳性麻痺について関心をもち、言語聴覚士としての役割やアプローチ法について学ぶ。
授業の到達目標	1. 脳性麻痺の定義や基礎知識を理解できる。 2. 正常発達を理解できる。 3. 評価の仕方やその視点を理解できる。 4. アプローチ法を理解したり考えたりできる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	脳性麻痺の定義	大山
第2回	基礎知識	〃
第3回	正常発達について	〃
第4回	正常発達について	〃
第5回	実技	〃
第6回	実技	〃
第7回	摂食・嚥下について	吉田
第8回	摂食・嚥下について	〃
第9回	摂食・嚥下について（実践）	吉田
第10回	コミュニケーション1	〃
第11回	コミュニケーション1	〃
第12回	コミュニケーション2	〃
第13回	コミュニケーション2	〃
第14回	実際の関わり	大山
第15回	実際の関わり	大山

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	評価、訓練については、発達段階に応じた課題を設定することが大切であるため、正常発達をしっかりと頭に入れておきましょう。
履修条件	

教科書	言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版、言語発達障害Ⅲ（言語聴覚療法シリーズ）
参考書	小児リハビリテーション（定期刊行誌） 障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション 障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定

科目名	音声障害	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	安藤 隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）言語聴覚士として医療現場で得た経験を基に、言語聴覚士の視点からとらえた音声障害の指導にあたる。				
科目担当者	安藤 隆一				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	45

授業の概要 （主題）	発声の仕組みを理解し、その障害像を理解する。また音声障害の症状を捉え、評価手段を学ぶと共に、正常発声に近づけるための訓練方法を理解する。
授業の到達目標	1.発声に必要な呼吸、喉頭の解剖・生理を理解し、声帯振動のメカニズムを捉える。 2.音声障害の定義を捉える。 3.音声障害の原因疾患を理解し、声の症状と繋げる。 4.評価のための正常値を理解し、評価手段を理解する 5.症状にあった訓練方法を理解する。 6.代償音声について理解する。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	発話の仕組み	安藤	16	音声訓練総論	安藤
2	喉頭の解剖 1	安藤	17	音声治療（声の安静・声の衛生）	安藤
3	喉頭の解剖 2	安藤	18	症状対処的音声治療 1	安藤
4	発話のメカニズム 1	安藤	19	症状対処的音声治療 2	安藤
5	発話のメカニズム 2	安藤	20	包括的音声治療法	安藤
6	声帯振動のメカニズム 1	安藤	21	喉頭鏡・ストロボスコープ評価	安藤
7	声帯振動のメカニズム 2	安藤	22	代償音声の種類/訓練法	安藤
8	音声障害の定義	安藤	23	プレテスト/質疑応答	安藤
9	音声障害の原因疾患 1	安藤	24		
10	音声障害の原因疾患 2	安藤	25		
11	音声障害の分類	安藤	26		
12	評価総論	安藤	27		
13	評価（聴覚的印象評価）	安藤	28		
14	評価（空気力学的評価）	安藤	29		
15	評価（機器を用いた評価）	安藤	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他（ ） （ 90 % ） （ % ） （ % ） （ % ） （ 0 % ） （ 10% ）
準備学習 学習へのアドバイス	1 年次 呼吸発声発語器官の解剖生理をしっかり復習しておく和良好的
履修条件	

教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第 3 版
参考書	

科目名	運動障害性構音障害			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として病院に勤務。急性期～生活期まで幅広く経験。その経験をもとに、運動障害性構音障害の指導にあたる。						
科目担当者	河野 武						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	45

授業の概要 （主題）	運動障害性構音障害の発生機序を理解し、発生機序に則った評価・検査を実施した上で、障害の特性を考慮した診断及び治療方法を習得する。
授業の到達目標	1. 発声発語器官の解剖・生理、構音のメカニズムが理解できる。 2. 運動障害性構音障害の原因疾患・病態・タイプ分類ができる。 3. 検査・評価・タイプ別訓練法の理解・技法ができる。 4. 訓練プログラムの立案と実施ができる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	運動障害性構音障害の定義・理解	河野	16	運動障害性構音障害の訓練（講義・実技）	河野
2	発声発語器官の運動機能障害	〃	17	運動障害性構音障害の訓練（講義・実技）	〃
3	運動障害性構音障害と発話特徴	〃	18	症例演習	〃
4	運動性構音障害の種類・病態とその疾患	〃	19	症例演習	〃
5	運動性構音障害の種類・病態とその疾患	〃	20	症例演習	〃
6	運動性構音障害の種類・病態とその疾患	〃	21	症例演習	〃
7	運動性構音障害の種類・病態とその疾患	〃	22	試験対策・まとめ	〃
8	検査・評価（情報収集・面接・問診）	〃	23	試験対策・まとめ	〃
9	AMSD の講義・実技	〃	24		
10	AMSD の講義・実技	〃	25		
11	AMSD の演習	〃	26		
12	AMSD の演習	〃	27		
13	リハビリテーションの流れ	〃	28		
14	運動障害性構音障害の訓練（講義・実技）	〃	29		
15	運動障害性構音障害の訓練（講義・実技）	〃	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (90%) (%) (%) (10%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	学習事項が多いので講義後には必ず復習をして下さい。
履修条件	

教科書	ディサースリア臨床標準テキスト：医歯薬出版株式会社 標準ディサースリア検査：インテルナ出版
参考書	ディサースリア標準テキスト完全対応ワークブック：医歯薬出版株式会社

科目名	機能性構音障害			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	田中 美紀（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、構音障害の種類や機能性構音障害の検査、評価、訓練について講義する。						
科目担当者	同上						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	45

授業の概要 （主題）	機能性構音障害についての知識を獲得する。 機能性構音障害の評価・訓練についての知識を獲得する。
授業の到達目標	1. 機能性構音障害とは何かを知る。 2. 音声表記（IPA）を復習する。 3. 機能性構音障害で出現する異常構音について学ぶ。 4. 新版構音検査について学ぶ。 5. 機能性構音障害の訓練について学ぶ。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	音声表記の復習	田中	16	新版構音検査実習	田中
2	機能性構音障害とは	〃	17	構音訓練について	〃
3	〃	〃	18	〃	〃
4	未熟構音と異常構音について	〃	19	〃	〃
5	異常構音について	〃	20	訓練立案	〃
6	〃	〃	21	〃	〃
7	〃	〃	22	〃	〃
8	〃	〃	23	総括	〃
9	新版構音検査の説明	〃	24	〃	〃
10	〃	〃	25		
11	新版構音検査まとめ	〃	26		
12	〃	〃	27		
13	構音障害の検査について	〃	28		
14	新版構音検査実習	〃	29		
15	〃	〃	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他（ ） （80%） （ %） （10%） （ %） （ %） （10%）
準備学習 学習へのアドバイス	検査実習については、各自で練習をして臨んでください。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	構音障害のある子どもの理解と支援、構音訓練のためのドリルブック
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	器質性構音障害 (No.1)			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	水野 明夫 (長崎大学 名誉教授)						
	(実務経験：有) 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯学系口腔顎顔面外科学分野元教授、歯学部(併：口腔外科学 I 担当)、同大学病院歯科系診療部門 顎・口腔外科元科長(併)・口腔顎顔面外科学室元室長(旧 第一口腔外科元科長 併任)として、当該分担全領域の教育・診療・研究に従事してきた。その経験をもとに器質性構音障害の指導にあたる。						
科目担当者	水野 明夫						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 (主題)	器質性構音障害の概念と基礎知識を学習する。ことに歯顎口腔領域の種々の先天的・後天的疾患との関わりについて学ぶ。
授業の到達目標	1. 器質性構音障害の概要を理解できる。 2. 構音、摂食、咀嚼等の障害と治療方法を理解できる。 3. 唇顎口蓋裂<口唇(または唇)裂、顎裂、口蓋裂>の基本的知識を理解できる。 4. 鼻咽腔閉鎖機能不全(口蓋裂など)を理解できる。 5. 舌・口腔底切除術、顎切除術に関するアプローチ等を理解できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	器質性構音障害とは: 構音器官に形態的異常があるために生ずる構音障害で、口唇、歯列、舌、口蓋、咽頭などの異常に基づくものである。すなわち声の共鳴腔としての口腔に、形態学的(すなわち解剖学的)異常があることによって生ずる構音障害。鼻咽腔閉鎖機能の障害が最も重大である。	水野
第 2 回	口蓋の異常 口蓋裂(唇顎口蓋裂)《粘膜下口蓋裂を含む》の障害・治療、顎口腔の悪性腫瘍	水野
第 3 回	顎口腔の良性腫瘍、顎口腔の損傷	水野
第 4 回	顎関節脱臼、舌の異常(舌小帯短縮症)、顎変形症、口腔顎顔面部の再建術	水野
第 5 回	顎口腔の症候群(ロバン症候群、ダウン症候群、ほか)、鼻咽腔閉鎖不全症、顎口腔の局所感染症	水野
第 6 回	口腔顎顔面部の機能障害、国家試験過去問題の検討、総括	水野

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	専門用語が多数あるので、講義後には必ず復習すること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	器質性構音障害 (No.2)			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	草場 謙至 (言語聴覚士)						
	(実務経験：有) 言語聴覚士として病院に勤務。小児の臨床にも携わり、その経験から器質性構音障害の評価・訓練について指導する。						
科目担当者	草場 謙至 藤田 俊一郎 (大村市民病院 言語聴覚士) 山田 歩 (大村市民病院 言語聴覚士)						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 (主題)	器質性構音障害とは何か、発声発語器官の基礎的知識、疾患の症状、専門職の連携・チームアプローチの実際を学ぶ。器質性構音障害を有する患者への治療・訓練とともに家族に対する言語聴覚士の役割を考える。
授業の到達目標	1. 口腔器官の解剖・構造と生理・機能を知り、鼻咽腔閉鎖機能を理解する。 2. 口唇口蓋裂の基礎知識を学び、問題点（言語障害）を考える。 3. 口唇口蓋裂の臨床（評価・言語治療）の方針とチームアプローチを学ぶ。 4. 口腔腫瘍と口腔形態（口唇口蓋裂以外）異常と症状を知る。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	器質性構音障害の定義と疾患	草場
	発声発語器の解剖と生理 鼻咽腔閉鎖機能とは	
第 2 回	口唇口蓋裂の基礎知識：口唇裂と口蓋裂の発生・裂型分類・発生頻度	草場
	問題点：鼻咽腔閉鎖機能不全、言語障害－言語発達遅滞・音声障害・構音障害	
第 3 回	口唇口蓋裂の臨床と治療	草場
	・治療方針（出生から成人までのプログラム） 外科的治療・補綴治療	
	・評価および治療－乳児期・幼児期・学童期・思春期／成人期	
	生育歴の情報収集、口腔・顔面の形態・機能、発声発語行動・発達検査ほか	
第 4 回	言語治療－鼻咽腔閉鎖機能不全、音声障害、構音障害に対して	藤田
	・特別な問題を持った症例 口蓋裂を伴わない言語症状の類似疾患	
	チーム治療：心理的・社会的問題、チームアプローチの重要性	
第 5 回	口腔腫瘍－舌切除・顎欠損－	山田
	舌・口唇の形態異常と機能障害	
	*講義内容のまとめ	

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	器質性構音障害は歯科口腔／形成外科、言語聴覚障害（臨床専門科目）と関連しています。器質構の教科書以外の文献も参考にしてください。
履修条件	機能性構音障害の内容を理解しておく。

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科学・口腔外科学 第2版
参考書	言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科学・口腔外科学 第2版 口蓋裂の言語臨床 第3版 言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害

科目名	嚥下障害 1			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	中尾 佳布（長崎リハビリテーション学院 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士。病院にて勤務。精神科。脳外科、回復期リハビリテーション病棟など幅広く経験。特に嚥下障害について関わりが多い。その臨床現場での経験をもとに、言語聴覚士として必要な聴覚系の解剖生理の指導にあたる。						
科目担当者	中尾 佳布、増田 廣介（長崎友愛病院 言語聴覚士）（実務経験：有）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	摂食・嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害の原因・評価について学ぶ。
授業の到達目標	1.口腔器官の解剖についての知識を獲得する。 2.5 期モデルとその内容について学ぶ。 3.嚥下反射の仕組みについて学ぶ。 4.加齢による変化を知る。 5.嚥下障害の評価法について学ぶ。 6.小児の嚥下、訓練法等について学ぶ。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	摂食・嚥下に関わる口腔器官の解剖	中尾
第 2 回	〃	中尾
第 3 回	摂食・嚥下に関わる口腔器官の解剖、小児の嚥下	中尾
第 4 回	嚥下のメカニズム（5 期モデル）	中尾
第 5 回	〃	中尾
第 6 回	嚥下反射の神経機構	中尾
第 7 回	摂食・嚥下の年齢的变化（サルコペニア）	中尾
第 8 回	誤嚥の分類、嚥下障害の分類	中尾
第 9 回	嚥下障害の評価の流れ	増田
第 10 回	嚥下障害の評価	増田
第 11 回	嚥下障害のレポートの書き方について	増田
第 12 回	嚥下障害の臨床	増田
第 13 回	嚥下障害の検査	中尾
第 14 回	嚥下障害の検査	中尾
第 15 回	復習	中尾

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （100% ） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	復習をおこない知識を定着させるようにしてください。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。

教科書	言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学、嚥下障害ポケットマニュアル
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	小児聴覚障害 2	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	古賀 涼（神田 E・N・T 医院 言語聴覚士）				
	（実務経験：有）臨床現場での経験をもとに小児聴覚障害の指導にあたる。				
科目担当者	同上				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2
				時間数	45

授業の概要 （主題）	主に小児の聴覚障害についての基礎知識を学習する。
授業の到達目標	1. 聴覚障害の概要を理解できる。 2. 聴覚検査のそれぞれの特徴と方法を理解できる。 3. 子どもの聴覚の発達及び聴覚補償の重要性について理解できる。 4. 小児の訓練について理解できる。 5. 聴覚の分野に少しでも興味を持てる。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	導入、聴覚障害の基礎知識	古賀	16	総括	古賀
2	聴覚障害のリハビリテーション	〃	17	長崎県立聾学校の特色・聾教育とは	
3	純音聴力検査・マスキング	〃	18	長崎県立聾学校見学	
4	自覚的・他覚的聴覚検査	〃	19	長崎県立聾学校見学	
5	乳幼児聴力検査	〃	20	長崎県立聾学校見学	
6	乳幼児聴力検査	〃	21	長崎県立聾学校見学	
7	補聴器と人工内耳	〃	22	聾学校見学 振り返り	
8	補聴器と人工内耳	〃	23	聾学校見学 振り返り	
9	小児難聴の評価	〃	24		
10	小児難聴の評価	〃	25		
11	小児聴覚検査	〃	26		
12	小児難聴の指導・支援	〃	27		
13	学校教育における指導と課題	〃	28		
14	特異的な聴覚障害	〃	29		
15	これまでの授業をもとに・・・	〃	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他() (70%) (15 %) (%) (%) (15 %) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	座学多めですが、できるだけ頑張って起きていてください。 質問どんどんしてください。
履修条件	必ず出席すること。

教科書	聴覚障害学 第2版 医学書院 聴覚障害の実際 改訂4版 南山堂
参考書	

科目名	成人聴覚障害 1			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	安藤 隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療現場で得た経験を基に、言語聴覚士の業務の基礎となる聴力検査を中心に指導にあたる。						
科目担当者	安藤 隆一						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	45

授業の概要 （主題）	中途失聴に関する知識をまとめ、ライフステージごとの特徴をおさえる。 基本的な聴覚検査に付いて知識を深め、結果の解釈ができるようになる。
授業の到達目標	1.聴覚障害の発症時期における特徴をおさえる。 2.量の検査、質の検査の違いを説明できる。 3.自覚的聴力検査と他覚的聴力検査の違いを説明できる。 4.各聴力検査の結果の解釈ができる。 5.聴覚補償について理解を深める。

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	聴覚障害とは	安藤	16	自記オーディオ演習	安藤
2	聴覚障害の影響とライフステージ	安藤	17	ABR 理論	安藤
3	聴力検査の意義	安藤	18	ABR 理論	安藤
4	法定聴力検査について	安藤	19	ABR 演習	安藤
5	語音聴力検査理論	安藤	20	ABR 演習	安藤
6	語音聴力検査理論	安藤	21	SISI ABLB 理論	安藤
7	語音聴力検査演習	安藤	22	コミュニケーションの評価	安藤
8	語音聴力検査演習	安藤	23	コミュニケーション障害の改善	安藤
9	インピーダンスオーディオ理論	安藤	24		
10	インピーダンスオーディオ理論	安藤	25		
11	インピーダンスオーディオ演習	安藤	26		
12	インピーダンスオーディオ演習	安藤	27		
13	自記オーディオ理論	安藤	28		
14	自記オーディオ理論	安藤	29		
15	自記オーディオ演習	安藤	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他() (80%) (10%) (%) (%) (5%) (5%)
準備学習 学習へのアドバイス	1 学年 聴覚系の解剖生理学 をおさえておくこと
履修条件	

教科書	標準言語聴覚障害学聴覚障害学第 3 版 聴覚検査の実際第 5 版
参考書	

科目名	言語聴覚障害学特論 2（呼吸リハビリテーション）			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	江里口 康子（所属 事業所：Smile Life 看護師・呼吸療法認定士）						
	（実務経験：有）所属学会：キネステティクス、日本コンチネンス協会、日本創傷・オストミー・失禁学会。2024 年「医療的ケア教員講習会」終了。現場での経験をもとに、呼吸リハビリテーションの指導にあたる。						
科目担当者	江里口 康子						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	言語聴覚士として必要な呼吸リハビリテーションの基礎知識を学ぶ
授業の到達目標	1. 肺の解剖・生理が理解できる 2. 吸引の種類と方法を理解し吸引を安全にできる 3. 呼吸不全の種類と酸素療法の方法が理解できる 4. 誤嚥性肺炎予防の口腔ケアの理解 5. 実際に他人の口腔ケアすることで患者さんの気持ちを知る 6. 酸塩基平衡を理解し血液ガスを見ることができる 7. 聴診により痰の貯留の有無を評価し、呼吸介助・体位ドレナージなど排痰援助ができる

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	呼吸器の解剖・生理 吸引（口腔・経鼻・気管）講義	江里口
第 2 回	吸引実技（呼吸の Q ちゃんを使用して） 呼吸不全とは何か？ 酸素療法の種類と正しい使用方法	〃
第 3 回	誤嚥性肺炎予防の口腔ケアの必要物品・方法	〃
第 4 回	誤嚥性肺炎予防の口腔ケアの実技	〃
第 5 回	酸塩基平衡初級編（血液ガスが読めるようにする）	〃
第 6 回	呼吸理学療法（呼吸音・副雑音の種類・聴診実技）	〃
第 7 回	呼吸理学療法実技（座位での呼吸介助）	〃
第 8 回	呼吸理学療法（排痰援助手技・体位ドレナージ）	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	呼吸介助はまずは自分たちで練習してからでないと患者さんに苦痛を与えることになるので、実習への積極的な参加 実習では患者さんの気持ちも理解するためペアを組んで行います。恥ずかしがらず、面倒くさがらない
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また真摯な受講態度を望む

教科書	パワーポイント資料
参考書	

科目名	専門臨床特論 1（臨床運動学）			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	小谷 泉／長崎リハビリテーション学院						
	（実務経験：○・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに基本動作および日常生活動作を運動学の観点から指導する。						
科目担当者	小谷 泉／長崎リハビリテーション学院 理学療法学科						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実習	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	基本動作および日常生活動作を運動学の観点から理解する。
授業の到達目標	1. 移動補助具の特徴を理解し、適合判定および使用方法が説明できる。 2. 起居・移動動作の基本型を説明および体現できる。 3. 起居・移動動作の介助方法を説明および体現できる。 4. 日常生活活動の評価について説明できる。

回 数	内 容	担 当
第 1 回	バイタルサインの確認の仕方	小谷
第 2 回	バイタルサインの計測	
第 3 回	関節運動の種類と名称	
	姿勢の種類	
第 4 回	立ち直り反応と平衡反応	
	起居動作	
第 5 回	移動補助具の種類と操作	
第 6 回	片麻痺患者の起居移動動作体験および介助法	
第 7 回	日常生活活動の評価（Barthel Index, FIM）	小谷
第 8 回	まとめ	

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	実習で学ぶ内容も多いので、積極的に取り組んでください。
履修条件	講義中の私語は慎むこと。

教科書	日常生活活動学テキスト，南江堂，2014
参考書	フィジカルアセスメントがみえる，MEDIC MEDIA，2016

科目名	専門臨床特論 2（脳神経外科学）			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	小野 智憲（長崎医療センター 脳神経外科 医長）						
	（実務経験：有）病院で医師として勤務。臨床現場の経験をもとに脳神経外科学の指導にあたる。						
科目担当者	小野 智憲・原口 渉（長崎医療センター 脳神経外科 医長）						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	1) 脳神経外科 総論 脳の働き、局在機能の復習
	2) " 各論 脳腫瘍の診断と治療
	3) " 各論 機能的脳神経外科手術、先天奇形の手術
	4) " 各論 脳卒中・外傷の診断と治療
授業の到達目標	脳神経外科疾患の概略を理解する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	脳神経外科総論 / 脳神経外科各論（脳腫瘍）	小野
第 2 回	脳神経外科総論 / 脳神経外科各論（脳腫瘍）	小野
第 3 回	脳神経外科各論（機能的脳神経外科）	小野
第 4 回	脳神経外科各論（機能的脳神経外科）	小野
第 5 回	脳神経外科各論（脳卒中総論）	原口
第 6 回	脳神経外科各論（脳卒中各論）	原口
第 7 回	脳神経外科各論（脳卒中疾患に対する治療概略）	原口
第 8 回	模擬試験	原口
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	
参考書	病気がみえる 脳・神経：MEDIC MEDIA

科目名	専門臨床特論 3 (CT・MRI 読影)	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	平尾 真希 (所属 長崎医療センター 放射線科)				
	(実務経験: <u>有</u> ・無) 放射線科医師として臨床で押さえておくべき中枢神経画像診断を解説する				
科目担当者	平尾 真希				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	CT・MRI の基本を学ぶ
授業の到達目標	CT・MRI の基本的な正常解剖を理解し、病変の初歩的診断ができること。 医療チームの一人として CT や MRI から患者さんの病態をある程度把握できること。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	CT・MRI の画像の特徴	平尾
第 2 回	CT・MRI の基本的な正常解剖	平尾
第 3 回	疾患の特徴と画像診断 (脳血管障害)	平尾
第 4 回	〃 (脳腫瘍)	平尾
第 5 回	〃 (頭部外傷)	平尾
第 6 回	〃 (感染・脱髄疾患)	平尾
第 7 回	〃 (眼窩内病変)	平尾
第 8 回	〃 (脊椎・脊髄病変)	平尾

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	画像診断は病気の診断だけでなく、患者さんの病態を把握するためにも非常に重要です。 医療現場での患者さんの状態理解に役立つと思います。
履修条件	

教科書	わかりやすい脳脊髄の MR・CT / 診断のポイントと症例集
参考書	

科目名	専門臨床特論 4（音楽療法）			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	三島（柘田）素子（所属 楽し・ミック有限会社 精神保健福祉士）						
	（実務経験：有） 長年病院に勤務して、音楽療法士としての臨床現場の経験をもとに、講義を行う。						
科目担当者	柘田 素子						
学 科	言語療法学科					学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	“ひと”の生活と“音楽”をテーマとし、歴史や音楽療法の実践例に関する情報提供を行うとともに、学生自身の経験から音楽の効果（弊害）を紐解き、音楽療法に関する理解を深める。
授業の到達目標	1.音楽が何故治療に用いられることが可能なのかについて理解できる。 2.音楽療法の主要な理論について理解できる。 3.児童・成人・高齢者領域での音楽療法の実際について理解できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	【生活と音楽】 歴史と共に変化する音楽の活用法について／身近な音楽体験を振り返り、その効果を確認する	柘田
第 2 回	【コミュニケーションと音楽】 人の音を聴く・誰かに聞いてほしい音・一緒に楽しみたい音楽 について	〃
第 3 回	【小児領域の音楽療法】 実践例など	〃
第 4 回	【成人（精神科）領域の音楽療法】 実践例など	〃
第 5 回	【言葉と音楽】 目に見えない曖昧なメッセージを持つ“音楽”について	〃
第 6 回	【記憶と音楽】 記憶がつなげる音楽について	〃
第 7 回	【高齢者領域の音楽療法】 実践例など	〃
第 8 回	まとめ	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	簡単な楽器操作を行なうので積極的な参加を望む。
履修条件	出席をすることと、真摯な受講態度を望む。

教科書	再改定版] 基礎から学ぶ音楽療法 海鳥社
参考書	

科目名	専門臨床特論 5 (栄養学)	開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	吉田 大輔 (長崎リハビリテーション学院)				
	(実務経験: <u>有</u> ・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハ栄養の指導にあたる。				
科目担当者	吉田 大輔 (長崎リハビリテーション学院)				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 (主題)	栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄の基本理解を深めるとともに、栄養管理の必要な対象者に対しリハビリテーションを実施するうえで配慮すべき栄養学的視点について学習する。
授業の到達目標	1. リハビリテーション専門職が栄養学視点をもつ必要性や意義について説明できる。 2. 栄養管理が必要な対象者に対する運動療法について説明できる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの説明)、リハ栄養とは	吉田
第 2 回	低栄養について考える	吉田
第 3 回	低栄養の評価 (体組成の測定)	吉田
第 4 回	エネルギー消費量の推定	吉田
第 5 回	エネルギー収支のバランスを考える	吉田
第 6 回	演習課題 (減量プログラムの立案、事例検討)	吉田
第 7 回	栄養状態を考慮したリハビリテーション① (サルコペニア、高齢者)	吉田
第 8 回	栄養状態を考慮したリハビリテーション② (COPD、糖尿病)、総括	吉田

成績評価の方法 (評価の基準)	☒ 定期試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 実習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20%) ☐ その他(%)
準備学習 学習へのアドバイス	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 グループ演習では、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。
履修条件	

教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 医歯薬出版 よくわかる専門基礎講座 栄養学 金原出版

科目名	臨床体験実習	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、実習前後において実習生の心得や言語聴覚療法に関する知識・技術を指導する。実習中は実習指導者とも連携を取り、学生のフォローを行う。				
科目担当者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）				
学 科	言語療法学科			学 年	2
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	2
				時間数	80

授業の概要 （目標）	3 学年時の「臨床実習」の準備段階として、実習を通して基本的言語聴覚療法を実践し、言語聴覚士の役割と責任について理解し、自己の言語聴覚士としての自覚を高めることを目標に実習を行っている。
---------------	---

授業計画		
実習期間	内 容	担当
1 月 19 日～ 2 月 6 日(予定) (3 週間)	実習指導者の指導・監督の下で、実際の対象者に対して言語療法評価を実施する。	言語療法学専攻教員全員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には、実習の指導者による学生の学修成果の評価を踏まえ、学院が成績評価・単位認定を行う。
--------------------	--

準備学習 学習へのアドバイス	実習病院（施設）への事前連絡で、実習準備・必要性の高い検査等を確認し、自己学習及び学生同士での検査実習を行う。疑問点は積極的に専任講師に質問し、学習を深めていくこと。
履修条件	

教科書	臨床体験実習で必要とするすべての専門書
参考書	

令和 7 年度 (2025 年度)

シラバス (授業計画)

言語療法学科 3 年次

科目名	ホスピタリティー論 3			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属 合同会社ヒューマンナガサキ）						
	（実務経験：有）多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる						
科目担当者	田中 美吉子						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	①医療のあらゆる場面で求められるビジネスマナーと対人コミュニケーションについて 演習を取り入れながら実践的に学習する。 ②就職活動時の基本的マナーを演習する。
授業の到達目標	・社会人としてのビジネスマナーとコミュニケーション力を養う。 ・就職活動に必要なマナーを心得る。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	ビジネスマナー、訪問のマナー、名刺交換	田中
第 2 回	食事のマナー（お箸や食器の遣い方、お茶のいただき方など）	田中
第 3 回	アサーティブコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）	田中
第 4 回	アサーションを活用した職場のコミュニケーションと演習	田中
第 5 回	就職活動における心構えとマナーについて	田中
第 6 回	自己分析、自己PR、志望動機など	田中
第 7 回	ホスピタリティー論の総復習、弱点克服	田中
第 8 回	模擬面接（口頭試験）	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☒ 実技試験 ☐ 演習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(学習態度) (%) (60 %) (%) (%) (%) (40 %)
準備学習 学習へのアドバイス	授業への取組姿勢、態度、身だしなみ、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。授業で学んだことを実生活でも常に意識しましょう。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	パワーポイントをお借りします。

科目名	言語聴覚障害学セミナー			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	安藤隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として、国家試験へ向けての重要ポイントを指導する。						
科目担当者	安藤隆一・田中美紀・河野 武・城下未来・中尾佳布（同 上）						
	宮原 亜理沙（ 言語聴覚士 ）						
	足立 耕平（長崎純心大学 人文学部 地域包括支援学科 教授 ）（実務経験：無）						
	古賀 涼（神田 E. N. T 医院 言語聴覚士）（実務経験：有）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	60

授業の概要 （主題）	3年間で特に修得の難しい基礎科目、臨床科目をもう一度復習し、国家試験に向けた基礎学習を養う
授業の到達目標	1.心理学全般を見直す 2.音響学・音声学を見直す 3.神経解剖生理を見直す 4.失語症、構音障害、言語発達遅滞を見直す

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	心理学全般	足立	16	音響学	田中
2	心理学全般	足立	17	心理学全般	城下
3	心理学全般	足立	18	心理学全般	城下
4	心理学全般	足立	19	心理学全般	城下
5	心理学全般	足立	20	構音障害	河野
6	心理学全般	足立	21	構音障害	河野
7	心理学全般	足立	22	聴覚心理学	田中
8	心理学全般	足立	23	構音障害	中尾
9	神経解剖	安藤	24	構音障害	中尾
10	神経解剖	安藤	25	言語発達遅滞	宮原
11	臨床神経学	安藤	26	言語発達遅滞	宮原
12	臨床神経学	安藤	27	言語発達遅滞	宮原
13	失語症	田中	28	言語発達遅滞	宮原
14	失語症	田中	29	言語発達遅滞	宮原
15	音響学	田中	30	人工中耳	古賀

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	各授業で配付したプリントに事前に目を通しておくこと
履修条件	

教科書	各科目におけるテキスト、言語聴覚士テキスト
参考書	

科目名	失語症 3			開講年度	2025	期	前期
科目担当責任者	田中美紀（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、失語症の評価、診断について指導する。						
科目担当者	田中美紀・安藤隆一（同 上）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	失語症の診断、評価法について理論や技能の修得を行う。 失語症の国試対策を通し、基礎から臨床まで学ぶ。
授業の到達目標	1.各種失語症検査について実習を行い、評価法を学ぶ。 2.国試対策にて失語症の知識の習得をする。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	WAB 失語症検査講義	安藤
第 2 回	WAB 失語症検査講義	安藤
第 3 回	SLTA-ST 講義	田中
第 4 回	SLTA-ST 実習	田中
第 5 回	WAB 失語症検査実習	安藤
第 6 回	WAB 失語症検査実習	安藤
第 7 回	CADL 講義	田中
第 8 回	CADL 講義	田中
第 9 回	重度失語症検査講義	田中
第 10 回	重度失語症検査講義	田中
第 11 回	SLTA 検査結果の見方について	田中
第 12 回	SLTA 検査結果の見方について	田中
第 13 回	CADL 講義	田中
第 14 回	CADL 講義	田中
第 15 回	重度失語症検査実習	田中
第 16 回	重度失語症検査実習	田中

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	各種検査のマニュアルを作成し評価法を修得すること。
履修条件	欠席しないこと。

教科書	各種検査マニュアル、 標準言語聴覚障害学「失語症学第2版」、なるほど！失語症の評価と治療
参考書	適宜紹介します。

科目名	高次脳機能障害 2			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として病院に勤務。急性期～生活期まで幅広く経験。その経験をもとに、高次脳機能障害の指導にあたる。						
科目担当者	河野 武、安藤 隆一（同 上）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	さまざまな高次脳機能障害の病態を通して、ヒト脳の発達の神秘とその損傷がもたらす不思議な心理現象を知り、なぜ言語を獲得できたのかなど、生物の進化の驚異を味わって欲しい。そのための一方法として、一般に失語・失行・失認と呼ばれる神経心理学的障害を中心に記憶障害から意識障害にいたる症状・兆候を、局在論、離断説、ネットワーク障害の観点から解説する。
授業の到達目標	さまざまな高次脳機能障害（神経心理学的障害）をその背景にある脳の機能・解剖学とともに理解し、障害者の病態理解と生活支援に役立てられるようになること。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	総論 神経心理学的な考え方（全体論、骨相学、局在論など）	河野
第 2 回	各論 1. 前頭葉といわゆる「前頭葉症候群」	河野
第 3 回	各論 2. 頭頂葉と空間認知機能—ゲルストマン症候群、構成失行、半側空間失認と注意の障害	河野
第 4 回	各論 3. 頭頂葉・後頭葉の視覚性失認—バリント症状群、相貌失認／物体失認、 アントン症候群／皮質盲	河野
第 5 回	各論 4. 失認（視覚失認、相貌失認、聴覚失認）について	河野
第 6 回	各論 5. 離断症候群—純粹失書、超皮質性失語(言語野孤立症候群)、離断脳(脳の 2 つの意識)	河野
第 7 回	各論 6. 失行—身振り失行(観念失行／観念運動失行／肢節運動失行)、構成失行、着衣失行 選択的失行	河野
第 8 回	各論 7. 記憶の分類と記憶障害	河野
第 9 回	各論 8. 認知症について	河野
第 10 回	各論 9. 非言語性のコミュニケーション障害	河野
第 11 回	VPTA 検査講義	安藤
第 12 回	VPTA 失語症検査講義	安藤
第 13 回	VPTA 失語症検査実習	安藤
第 14 回	VPTA 失語症検査実習	安藤
第 15 回	総括	河野

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	高次脳機能障害 1 の復習をしておくこと。
履修条件	脳の解剖生理学の基本的知識を有すること。

教科書	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 3 版（医学書院）
参考書	「よくわかる失語症と高次脳機能障害」（永井書店）

科目名	言語発達遅滞 3			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	宮原 亜理沙（長崎リハビリテーション非常勤講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として医療・福祉施設にて小児の臨床に 10 年間携わった経験をもとに指導する。						
科目担当者	同上						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

*実務経験とは PT・OT・ST の経験を指します。

授業の概要 （主題）	言語発達障害とは何かを理解する。 言語発達障害の原因疾患と評価・訓練について理解する。 国家試験問題の傾向を知り、問題を解けるようにする。
授業の到達目標	1. 正常発達を理解する。 2. 言語発達障害の原因疾患の特徴をおさえる。 3. 検査の分類・対象・内容を覚える。 4. 言語発達段階・障害別の訓練を覚える。 5. 言語発達障害に関する国家試験をおおまかに把握する。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	正常発達についての復習	宮原
第 2 回	〃	〃
第 3 回	言語発達障害の訓練について	〃
第 4 回	〃	〃
第 5 回	言語発達障害訓練の復習	〃
第 6 回	〃	〃
第 7 回	国家試験対策（正常発達）	〃
第 8 回	〃	〃
第 9 回	国家試験対策（言語発達障害の原因疾患）	〃
第 10 回	〃	〃
第 11 回	国家試験対策（言語発達障害の検査）	〃
第 12 回	〃	〃
第 13 回	国家試験対策（言語発達障害の訓練）	〃
第 14 回	〃	〃
第 15 回	総括	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	配付資料は後期の国家試験対策でも使用します。失くさないでください。 覚えなないといけないことが多いので、各自覚えるための工夫をしてください。
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること。
教科書	言語発達障害学 第 3 版
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	重複障害			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	町田 勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
	（実務経験：有）病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。回復期、生活期リハビリテーション、地域連携の経験をもとに障がい児・者について指導する。						
科目担当者	町田 勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） 中倉 幸太郎（Risana520 言語聴覚士）（実務経験：有） 藤井 修（相談センター悠 管理者兼相談支援専門員）（実務経験：無）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	・ 重複障害児の多様な状態に応じた介入を実践するために必要な知識を深めることを目的とする。 ・ 福祉施策の歴史、福祉制度の移り変わり、福祉制度の現状と課題 ・ 障害児者のニーズ、ケアマネジメントの手法、多職種連携の重要性 ・ 支援の視点を学習する
授業の到達目標	・ 重複障害児に対する関わり方やコミュニケーション方法について学ぶ。重複障害児の障がいの状態とそれに基づいた支援の方法、生活支援のあり方などについて説明できる。 ・ 障害児者のニーズを理解し、セラピストとしての視点を学習することにより、今後の学習意欲の向上を目指す

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	高齢者、生活不活発病者の障害像とリハビリテーション、リハビリテーション評価	町田
第 2 回	中枢神経損傷者の障害像とリハビリテーションおよび日常生活活動(脳卒中・頭部外傷)	町田
第 3 回	脊髄損傷者および骨関節疾患者の障害像とリハビリテーション	町田
第 4 回	発達障害児（者）の障害像とリハビリテーション ①脳性麻痺②その他の発達障害	町田
第 5 回	発達障害児への支援	中倉
第 6 回	発達障害児への支援	中倉
第 7 回	・ 福祉施策の歴史について ・ 福祉制度の移り変わり ・ 福祉制度の現状と課題	藤井
第 8 回	・ 障害児（者）のニーズ ・ ケアマネジメントの手法 ・ 多職種連携の重要性 ・ 支援の視点	藤井

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他() (%) (%) (%) (%) (100%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	(藤井)『ピープルファースト』 (町田) 講義後には、テキストの該当箇所を読んで、知識を整理しておいてください。
履修条件	必修科目ですので必ず出席すること。
教科書	配布資料を準備します
参考書	(藤井) 大村市自立支援協議会並びに長崎県相談支援専門員協会のホームページを見てください (町田) 落合 慈之 (監) ; リハビリテーションビジュアルブック,Gakken. 北村 諭(著) ; コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論,中外医学社. 福田 素生,他(著) ; 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉, 医学書院. 医療情報科学研究所 (編) ; 病気がみえる 7 脳・神経 第2版, メディックメディア.

科目名	嚥下障害 2			開講年度	2025	期	前
科目担当責任者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
	（実務経験：有）言語聴覚士として病院に勤務。急性期～生活期まで幅広く経験。その経験をもとに、高次脳機能障害の指導にあたる。						
科目担当者	河野 武（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	摂食嚥下障害についての基本的な事項、摂食嚥下障害の検査、診断、評価法の復習を行う。そして、新たに摂食嚥下障害のリハビリテーションについて学び、講義の中で、一部演習も行いながら理解を深めていく。
授業の到達目標	摂食嚥下障害に関する基本的事項を理解し、摂食嚥下リハビリテーションにおいて言語聴覚士として、役割が果たすことが出来る知識と技能を養う。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	摂食嚥下障害について（2年生時の復習）	河野
第 2 回	嚥下訓練について（間接訓練）①	〃
第 3 回	嚥下訓練について（間接訓練）②	〃
第 4 回	嚥下訓練について（直接訓練）①	〃
第 5 回	嚥下訓練について（直接訓練）②	〃
第 6 回	食事介助について、気管切開患者への対応について	〃
第 7 回	摂食嚥下障害患者の外科的治療	〃
第 8 回	症例演習、国試演習	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	2 年時に学習した嚥下障害の内容について復習しておいて下さい。
履修条件	

教科書	医歯薬出版株式会社：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 医歯薬出版株式会社：嚥下障害ポケットマニュアル第 3 版
参考書	必要に応じて紹介します。

科目名	吃音	開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	江頭 聡子（三川内病院リハビリテーション科 言語聴覚士）				
	（実務経験：有）言語聴覚士として吃音の臨床に従事。吃音の評価・訓練について講義する。				
科目担当者	江頭 聡子				
学 科	言語療法学科			学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	吃音臨床の基礎知識を学習する
授業の到達目標	1. 吃音臨床（言語療法）の流れを理解できる 2. ラポート形成の方法を理解できる 3. 吃音症状を理解できる 4. 吃音者の心理状態を理解できる 5. 吃音評価方法を理解できる 6. 吃音訓練方法を理解できる 7. 年表方式のメンタルリハーサル法の技術を獲得する

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	自己紹介、吃音臨床の流れについて	江頭
第 2 回	吃音症状について、吃音者が抱える問題について、重複障害について	江頭
第 3 回	前期の臨床実習の感想を発表	江頭
第 4 回	愛情のものさし、行動観察、客観視、エゴグラム実施（宿題：行動観察、年表）	江頭
第 5 回	宿題発表	江頭
第 6 回	ラポート形成について、感情のコントロールについて	江頭
第 7 回	後期の臨床実習の感想を発表	江頭
第 8 回	吃音評価について、プラスの声かけについて（宿題：行動分析、プラスの声かけ）	江頭
第 9 回	宿題発表	江頭
第 10 回	成人の吃音の訓練法（質問紙）について	江頭
第 11 回	成人の吃音の訓練法（メンタルリハーサル法）について	江頭
第 12 回	小児の吃音の訓練法（環境調整法）について	江頭
第 13 回	親子関係検査実施、感覚統合について（宿題：授業で学んだことを 200 字程度）	江頭
第 14 回	宿題発表	江頭
第 15 回	プラスの声かけ実施、発表、まとめ、質問	江頭

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他（ ） （60%） （ %） （ %） （ %） （40%） （ %）
準備学習 学習へのアドバイス	宿題を必ず提出すること
履修条件	必ず出席すること。宿題も必ず提出すること

教科書	言語療法シリーズ「吃音」
参考書	「吃音は治せる」「間接法による吃音訓練」

科目名	成人聴覚障害 2	開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	中尾佳布（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）言語聴覚士として医療現場で得た経験を基に、中途失聴の聴覚補償を中心に指導にあたる。				
科目担当者	中尾佳布（同 上）				
学 科	言語療法学科			学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	15

授業の概要 （主題）	成人聴覚障害 1 の内容を復習しつつ、聴覚補償を捉える。
授業の到達目標	1.各聴力検査の目的が説明できる。 2.補聴と残存聴力の活用がわかる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	聴力検査の復習、歪音耳音響放射をおさえる。	中尾
第 2 回	補聴と残存能力の活用（補聴機器の活用）	中尾
第 3 回	補聴と残存能力の活用（聴能訓練）	中尾
第 4 回	補聴と残存能力の活用（読話）	中尾
第 5 回	補聴と残存能力の活用（コミュニケーションストラテジーの獲得）	中尾
第 6 回	発症時期別の対応（言語獲得前発症の聴覚障害）	中尾
第 7 回	発症時期別の対応（成人期発症の聴覚障害）	中尾
第 8 回	発症時期別の対応（高齢期発症の聴覚障害）	中尾

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☒ その他(口頭試問) (%) (%) (%) (%) (20%) (80%)
準備学習 学習へのアドバイス	聴覚検査の実際を読んでおくこと 国家試験に向けた知識の定着に留意すること
履修条件	

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害第 3 版 聴覚検査の実際第 4 版
参考書	

科目名	補聴器・人工内耳			開講年度	2025	期	後期
科目担当責任者	松下 展久（所属 補聴器のマツオ店長 認定補聴器技術者）						
	（実務経験：有）補聴器のマツオ 店長。認定補聴器技能者。現場での経験をもとに補聴気の指導にあたる。						
科目担当者	松下 展久（所属 補聴器のマツオ店長 認定補聴器技能者） 原 陽子（所属 長崎大学病院 言語聴覚士）（実務経験：有）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	補聴器・人工内耳の種類や適合方法を学び、その効果を理解する。
授業の到達目標	1、補聴器の構造と種類を理解する。 2、補聴器に関係する用語を理解する。 3、聴覚検査の結果と補聴器の出力特性を関係づけ理解する。 4、補聴器の装用効果を測定し、補聴器適合に活用できる。 5、人工内耳について知る。（しくみ、臨床場面など）

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	補聴器の種類と構造（デジタル&アナログ、形状、部品）	松下
第 2 回	〃	〃
第 3 回	イヤモールドや耳穴型補聴器に必要な耳型採型の実習	〃
第 4 回	補聴器の性能（リニア&ノンリニア増幅、デジタル音響処理）	〃
第 5 回	補聴音響特性検査（フィッティング評価）	〃
第 6 回	補聴音響特性検査（JIS に基づく評価）	〃
第 7 回	〃	〃
第 8 回	補聴器適合検査の指針 2010 に基づく補聴器評価	〃
第 9 回	周辺機器、聴覚障がい者情報保障	〃
第 10 回	国試対策	〃
第 11 回	〃	〃
第 12 回	人工内耳の説明	原
第 13 回	〃	〃
第 14 回	〃	〃
第 15 回	国試（人工内耳）を解く	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	出席すること。

教科書	言語聴覚士テキスト
参考書	

科目名	臨床実習			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）						
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、実習前後において実習生の心得や言語聴覚療法に関する知識・技術を指導する。実習中は実習指導者とも連携を取り、学生のフォローを行う。						
科目担当者	言語療法学科全教員（長崎リハビリテーション学院）						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	12	時間数	480

授業の概要 （目標）	実習を通して、基本的言語聴覚療法を実践し、言語聴覚士の役割と責任について理解し、自己の言語聴覚士としての自覚を高めることを目標に実習を行っている。
---------------	---

授業計画		
回数	内 容	担当
2025 年 5 月～9 月 (8 週間×2 回)	実習指導者の指導・監督の下で、実際の対象者に対して言語療法 評価・治療を実施する。	言語療法学専 攻教員全員

成績評価の方法 （評価の基準）	実習終了時には、実習の指導者による学生の学修成果の評価を踏まえ、学院が成績評価・単位認定を行う。
--------------------	--

準備学習 学習へのアドバイス	臨床実習指導を担当する言語聴覚士に対して、実習開始前に臨床指導者会議を実施している。この会議では実習の目的・目標等の共通理解を深めることを目的に実施している。
履修条件	

教科書	臨床実習で必要とするすべての専門書
参考書	

科目名	言語聴覚障害学特論 3 (地域リハビリテーション)			開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
	（実務経験：有）地域におけるリハビリテーションの対象者とリハビリテーション活動の その実務経験をいかして、地域リハビリテーションについて授業を行う。						
科目担当者	小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） 出口 恵里奈（介護老人保健施設恵仁荘 言語聴覚士）（実務経験*：有） 柿田 京子(元介護老人保健施設 うぐいすの丘 副施設長)						
学 科	言語療法学科					学 年	3
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	訪問リハビリテーションに携わるために必要な基礎知識・考え方を学ぶ。
授業の到達目標	訪問リハビリテーションとは、リハビリテーションを必要とする対象者およびその家族を、チームで連携し、支援する活動であり、在宅支援としての訪問リハビリテーションの役割、その基本的な考え方を理解する。(小谷) 地域リハビリテーションと訪問リハビリテーションの概要を理解できる。訪問リハビリにおけるリスク管理や多職種との連携について知る。医学モデルと生活モデルそれぞれの考え方・違いを理解する (病院と在宅の違い)。訪問リハビリの楽しさを知る。(出口)

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第1回	訪問リハビリテーションの支援のあり方	小谷
第2回	訪問リハビリテーションの具体的な業務	小谷
第3回	訪問リハビリテーションについて(1)	小谷
第4回	訪問リハビリテーションについて(2)	小谷
第5回	地域リハビリテーション・訪問リハビリテーションの概論	出口
第6回	リスク管理・多職種連携についてなど	出口
第7回	終末期ケア	柿田
第8回	終末期ケア	柿田

成績評価の方法 (評価の基準)	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☒ レポート ☐ その他() (%) (%) (%) (%) (100%) (%)
準備学習 学習へのアドバイス	訪問リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割について理解してください。
履修条件	必ず出席すること。

教科書	なし
参考書	必要時、授業にて紹介する

科目名	症例演習	開講年度	2025	期	前後期
科目担当責任者	安藤隆一（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師）				
	（実務経験：有）言語聴覚士としての臨床経験をもとに、症例報告を通して報告書の書き方やプレゼンの方法を指導する。また、文献的な考察をし、言語聴覚療法について研究的な視点を養えるよう指導する。				
科目担当者	安藤隆一・田中美紀・河野 武・中尾佳布・城下未来（同 上）				
学 科	言語療法学科			学 年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1
				時間数	30

授業の概要 （主題）	実習で受け持った症例に関し、文献的な考察を加え、レジュメを作成、症例報告と実施することで知識・指導内容の並列化を行う
授業の到達目標	1.対象症例の評価結果から問題点を抽出し、目標を設定できる。 2.目標に到達できるための訓練計画を立案し、実行の経過をまとめる。 3.再評価から更なる組み立てを行い、考察を行う。 4.時間内にプレゼンテーションができる。

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	I 期目症例報告	安藤
第 2 回	I 期目症例報告	安藤
第 3 回	I 期目症例報告	安藤
第 4 回	I 期目症例報告	安藤
第 5 回	I 期目症例報告	安藤
第 6 回	I 期目症例報告	安藤
第 7 回	I 期目症例報告	安藤
第 8 回	II 期目症例報告	安藤
第 9 回	II 期目症例報告	安藤
第 10 回	II 期目症例報告	安藤
第 11 回	II 期目症例報告	安藤
第 12 回	II 期目症例報告	安藤
第 13 回	II 期目症例報告	安藤
第 14 回	II 期目症例報告	安藤
第 15 回	II 期目症例報告	安藤
第 16 回	II 期目症例報告	安藤

成績評価の方法 （評価の基準）	☐ 定期試験 ☐ 実技試験 ☒ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他（ ） （ % ） （ % ） （100%） （ % ） （ % ） （ % ）
準備学習 学習へのアドバイス	1 年生、2 年生の聴講も予定しているので、基本用語に関してもしっかりおさえておくこと。誰が聴いても分かりやすいレジメや power point 資料を作成すること。
履修条件	本番前には事前練習をしっかり行っておくこと。

教科書	
参考書	